

決行指定

決裁指定



保存期限

195

房官臣大 謀局務主

大臣

受 晉 件

政務次官
參與官

了結	領受	出提	領受	號番
----	----	----	----	----

航本

發藥

號

昭和

陽	陽
陽	陽

招印

張

年
1997

一、

三

卷三

一

1. **Introduction**

1

八

(裁決)行決
覽 回 後

連帶

長局

長扇

主務部長

部
長

三

卷與官



主務課長

第一課長

主

官主
屏終

主務部

一、



者筆密
記案

九七式戰車 九七式輕爆擊機 九七式重爆擊機 假制式制定、件
九七式司令部偵察機 九七式輸送機

陸軍航空本部

決行（決裁）後
回覽課名

陸軍

決 裁 案

首題 飛行機別紙構造要領ノ通假制式トシテ制定相
成度

追而各飛行機ノ秘密區分ハ別表ノ通ト致度
右決裁ヲ請フ

陸密

陸軍大臣ヨリ參謀總長ヘ照會

首題、件別紙構造要領ノ通假制式トシテ制定致度該
構造要領並審査成績ノ概要相添ヘ照會ス
追而本件ハ十二月二十四日陸軍軍需審議會ニ於テ

本件
成度



陸軍

可決セラレタルモノニシテ各飛行機ノ秘密區分ハ別表ノ
通ト可致ニ付申添フ

陸密第一五七三號 昭和十一年三月廿八日

右異存ナキ旨回答アリタル後左案決行セラレ度

陸密

省副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ 通牒

省題ノ件別紙構造要領ノ通假制式トシテ制定セラレタ
ルニ付該構造要領配賦目錄ノ通送付ス

追而各飛行機ノ秘密區分ハ別表ノ通ナルニ付申添

フ

陸密第一五七三號 昭和十一年四月廿八日

昭和十一年四月七日

附屬品送付済



アジア歴史資料センター

應名	内	譯	應名	内	譯
近衛師團	一	幕僚 兵器一	第十四師團	一	幕僚 兵器一
第一師團	一	幕僚 兵器一 要塞	第十六師團	一	幕僚 兵器一 要塞
第二師團	二	幕僚 兵器一 高田一	第十九師團	一	幕僚 兵器一 要塞
第三師團	二	幕僚 兵器一 豊田一	第二十師團	一	幕僚 兵器一 要塞
第四師團	一	幕僚 兵器一 要塞	北支派遣軍	四	第美國一航空廠三
第五師團	一	幕僚 兵器一	上海派遣軍	一	航空廠一
第六師團	一	幕僚 兵器一 要塞			
第七師團	一	幕僚 兵器一 要塞			
第八師團	一	幕僚 兵器一			
第九師團	一	幕僚 兵器一			
第十師團	一	幕僚 兵器一			
第十一師團	一	幕僚 兵器一			
第十二師團	一	幕僚 兵器一 要塞			

陸軍兵器機（秘）密取扱区分表

器材			区分		
九七式輸送機	九七式司令部偵察機	九七式重爆撃機 九七式輕爆撃機	九七式戰闘機	名	稱
普通兵器	軍事秘密	軍事秘密		機密（秘）密取扱区分	
該當スルモノ無シ	武装裝備、性能	性能、構造 武装裝備 機關ノ特性及其ノ最大馬力 當分寫眞撮影新聞掲載等ヲ禁ス		秘密事項	
		上記事項ノ公表ハ諜報ニ對シ有力ナル資料ヲ與フルヲ以テナリ		同上決定ノ理由	

九七式戰鬥機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十一年四月航秘第四四九号新戰鬥機試作ニ関スル件達ニ基キ試作セル戰鬥機ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判 決

本機ハ要求セラレタル諸條件ヲ充足シ戰鬥機トシテ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般成績

- 一、本機ノ構造諸元及飛行性能別紙ノ如シ
- 二、行動半径
行動半径ハ要求條件ヲ充足シ三〇〇料ニシテ概ネ三〇分ノ

餘裕ヲ有シ燃料滿載ノ場合ハ四〇〇料迄延長シ得且概ネ三
 〇分ノ餘裕ヲ有ス

尚落下「タンク」裝備ノ場合ハ行動半径六〇〇料ニシテ約一時
 間ノ餘裕ヲ有シ得ル見込ナリ

三、操縦性能

安定良好運動輕快且操縦一般ニ容易縦舵性操舵反動概不適
 良ニシテ其成績概不良ナリ

四、戰鬥及射撃性能

格鬥戰鬥性能ハ良好ナリ

射撃性能ハ射撃安定良好機關銃ノ裝備モ亦概不適當ニシテ
 其ノ成績良好ナリ

五、構造強度

陸軍飛行機構造假規程ニ基キ製作セラレ構造適當強度十分
 ナリ

六、耐久性及取扱



九七式戦闘機審査成績概要

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

0444

陸軍省へ



九七式戦闘機構造要領

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式戦闘機構造要領

第一用 途

一、本機ハ主トシテ敵機攻撃ニ用フルモノトス

第二 構造及機能ノ概要

二、本機ハ低翼片持式單葉單座機ニシテ九七式六五〇馬力發動機一基及「プロペラー」一本ヲ装ス

三、本機ノ機体ハ胴体、翼組、尾翼、降着装置、操縦装置其ノ他胴体内外附属諸装置等ヨリ成リ主トシテ「アルミニウム」合金ヲ以テ構成セラレ一部ニ鋼ヲ使用シ操縦翼ノミノ木製羽布張トス。機体ノ外面ハ灰綠色塗料ヲ塗施ス

(イ) 胴体ハ胴体主体、發動機架ヨリ成ル

(1) 胴体主体ハ其ノ断面概ネ楕円形ニシテ一四箇ノ円框及約二〇本ノ縦通材ヨリ成リ外面ハ「アルミニウム」合

- 金板張トシ略々中央部ニテ分割シ得
- (2) 發動機架ハ鋼管熔接製ニシテ著脱式トス
- 發動機整流筒ハ「アルミニウム」合金板製ニシテ前後二部ニ分タレ前部ハ著脱容易ナルニ後部ハ胴体ニ鉄着ス
- (四) 翼組ハ片持式單葉ニシテ補助翼及下ケ翼ヲ有シ胴体ニ鞏固ニ結合セラル
- (1) 主翼ハ左右兩翼一体ニシテ三箇ノ桁多数ノ小骨及補助縦通材ニヨリ骨骼ヲ構成シ外面ハ「アルミニウム」合金板張トシ中央部ニ翼内燃料「タンク」ヲ收容ス
- (2) 補助翼ハ軸管ハ「アルミニウム」合金管前緣部及小骨ハ木製ニシテ前緣ニ平衡部ヲ有シ外面ハ羽布張トス
- (3) 下ケ翼ハ「アルミニウム」合金板製トス
- 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定板及昇降舵、垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル
- (1) 水平安定板ハ著脱可能ナル片持式結構ニシテ外面ハ「ア

(二)

- ルミニウム合金板張トス
- (2) 昇降舵ハ左右二部ヨリ成リ軸管ハ「アルミニウム」合金管他ハ木製ニシテ外面ハ羽布張トシ後縁ノ一部ニ平衡翼ヲ有ス
- (3) 垂直安定板ハ胴体後部ト一体ニ構成セラレ外面ハ「アルミニウム」合金板張トス
- (4) 方向舵ハ軸管ハ「アルミニウム」合金管他ハ木製ニシテ外面ハ羽布張トス
- 降着装置ハ脚組、車輪及尾橈装置ヨリ成ル
- (1) 脚組ハ單脚式ニシテ脚柱緩衝器及脚履ヨリ成ル
- 脚柱ハ特殊鋼管製トス、緩衝器ハ空圧式トシ脚柱内部ニ收容セラル
- (2) 車輪ハ六五〇×一〇〇高圧制動車輪ニシテ車輪履ヲ有ス
- 尚脚組ヲ換装シテ低圧車輪ヲ装着スルコトヲ得
- (3) 尾橈装置ハ尾橈及緩衝器ヨリ成リ緩衝器ハばね油圧式

トス

(ホ) 操縦装置ハ補助翼昇降舵方向舵ノ各操縦装置及下々翼操作装置ヨリ成ル。補助翼ハ剛性操作式昇降舵方向舵ハ索動式下々翼ハ機械操作式トス

(ハ) 附属諸装置ハ發動機操作燃料給油及非常脱出装置等ヨリ成ル

- (1) 發動機操作装置ハ気化器操作装置環型覆下々翼操作装置及始動装置ヨリ成リ各操作装置共剛性操作式トス
- (2) 燃料装置ハ燃料「タンク」諸配管燃料管制器及燃料管用重力弁等ヨリ成リ送油「ポンプ」式トス
- 燃料「タンク」ハ「アルミニウム」製ニシテ翼内及胴体内ニ装著セラレ、尚別ニ主翼下面ニ特殊装備トシテ落下「タンク」ヲ装著シ得
- (3) 給油装置ハ滑油「タンク」濾過器冷却器及諸配管等ヨリ成ル

(4) 非常脱出装置ハ座席装置及脱出口ヨリ成ル座席装置ハ座席上下装置並ニ非常脱出用背當解脱装置等ヨリ成リ脱出口ハ胴体下面ニ在リ

四 本機ノ發動機ハ九七式六五〇馬力九気筒星型固定空冷式ニシテ気化與圧分配、臭火及運轉ノ諸装置ヲ備ヘ、尚燃料供給並ニ始動装置ヲモ附屬セシメ得ル構造ヲ有ス其ノ主要諸元及性能次ノ如シ

(1) 諸元

気筒径

一四六耗

衝程

一六〇耗

重量

約四二五磅

發動機ノ外径

約一、二八二耗

「プロペラ」ノ回転方向（飛行方向ニ視テ）

右廻リ

燃料及同消費率

（航空八七揮発油ヲ用キ）

二七〇馬力時ヲ標準トス

滑油及同消費率

（航空機用「レマシ」油ヲ用キ）

一〇五馬力時ヲ標準トス

三

(ロ) 性能

正規回転数

二、四〇〇回転/毎分

最大回転数

二、六〇〇回転/毎分

正規地上馬力

約 六〇〇馬力

最大地上馬力

約 七一〇馬力

正規與圧高度馬力 (高度四、〇〇〇米ニテ)

約 六八〇馬力

最大與圧高度馬力 (高度三、五〇〇米ニテ)

約 八〇〇馬力

五、フプロペラハ金属製ニ翼分離式ナリ

六 装備

(イ) 射撃装置

固定機関銃ニ、固定機関銃用照準具一組及發射聯動機ニ組

ヲ裝著シ突包一〇〇發ヲ携行シ得

(ロ) 無線装置一組ヲ裝備ス

(ハ) 計測器装置

速度計、高度計、飛行時計、旋回指示器、昇降計、羅鍼盤、燃料油圧

計油量表、回転計、滑油温度計、吸入圧力計、滑油油圧計、気筒温度計、各一箇ヲ装着ス

(二) 電気装置

機上電気器具一組及照明用諸燈器ヲ装着ス

(ホ) 各種附属品

落下傘一箇

(ハ) 以上、外特別装備トシテ固定式射撃鑑査寫真機、酸素吸入

器翼下照明火ヲ装着シ得

七、其ノ他必要ナル事項

(イ) 本機ハ本邦軌道ニ依ル輸送可能ナリ

(ロ) 本機ノ主要部品ハ部分の交換及修理等容易ナリ

第三 主要諸元

全 幅
全 長

約 一、三一〇 米
約 七、五 米

同	主要性能	乘員	滑油	燃料	塔載量	全備重量	空虛重量	主翼面積(補助翼共)	全高
(實用)	(理論)			常時滿載	常時滿載	常時滿載			
一二、二五〇米	一一、七五〇米	約一七〇呎	約二四〇呎	約二八〇立 約三三〇立	約四〇〇呎 約四三七	約一五四七磅	約一一一〇磅	約一八、五六平方米	約三、二八〇米

上昇時間	(五〇〇米迄)	五分二秒
水平飛行速度	(一〇〇米ニ於テ)	四二七粒/時
同	(三、五〇〇米ニ於テ)	四七〇粒/時
同	(五、〇〇〇米ニ於テ)	四六八粒/時

七、耐久性ニ富ミ取扱容易ナリ
鉄道輸送

本邦軌道ニヨル鉄道輸送可能ナリ

第四 審査経過ノ概要

一、第一次

昭和十年十二月中島、川崎、三菱三社ニ對シ新戰鬥機研究工ノ參考資料ヲ與ヘ以テ新戰鬥機ノ設計研究ニ着手シ越エテ昭和十一年三月前記三社ノ新戰鬥機基礎設計ノ審査ヲ行ヒ昭和十一年四月航秘第四四九號新戰鬥機試作ニ關スル件達ニ基キ三社ニ夫々「キニ十七」「キニ十八」及「キニ十三」ノ競争試作ヲ命シタリ

爾後所要ノ設計試作指導ヲ實施シ同年七月以降十二月ニ亘リ逐次試作機完成セシヲ以テ當所及明野陸軍飛行學校ニ於テ基本審査ヲ行ヒ昭和十二年二月第一次審査ヲ終了ス

二、第二次

第一次審査ノ結果次ノ如キ「キニ十七」性能向上第一案及第二案ニ就キ更ニ試作審査ヲ實施スルニ決シ同年三月増加試作ニ關スル指示ヲ中島ニ與ヘタリ

第一案

「ハ一」乙ヲ換裝シ主翼ニ換リ下ケヲ與ヘ且主翼面積ヲ翼端ニ於テ約一〇平方米増加ス

第二案

「ハ一」乙ヲ換裝シ主翼ニ換リ下ケヲ與ヘ且主翼面積ヲ約三、二平方米増加ス

爾後極力設計製作ヲ急キ概不予定計画ニ從ヒ六月ヨリ七月ニ亘リ左ノ六機納入サル

第一案機

第三、第四、第八號機

計六機

第二案機

第五、第六、第七號機

右試作機ニ就キ逐次立川ニ於テ審査實施中ノ處偶々支那事変ニ際會シ審査促進ノ必要ニ迫ラレ審査計画ヲ改変シ八月中旬迄ニ概不重要ナル試験項目ヲ終了シ八月下旬全機ヲ明

W. Wer

9560

27.-

校ニ移シ對敵性及射撃性ノ試験ヲ實施ス
爾後補足試験ヲ實施シ九月中旬第二案機ヲ以テ制式機トシ
テ適當ナリトノ判決ヲ得タリ

別紙第一

九七式戦闘機構造ノ概要、諸元、飛行性能

一、構造ノ概要

本機ハ低翼片持式單葉單座機ニシテ機体ハ「アルミニウム」合金ヲ主材トシ一部ニ鋼ヲ使用シ操縦翼ハ木製小骨羽布張ニシテ胴体前端ニ九七式六五〇馬力發動機ヲ装シ「プロペラ」ハ

金屬製ニ翼分離式トス

構造ハ寫真第一、第二ノ如シ

二、本機ノ主要諸元次ノ如シ

全	幅(米)	約一、三一〇
全	長(米)	約七、五九
全	高(米)	約三、二八〇
主翼面積(補助翼共)	(平方米)	約一八、五六〇
重量(駐)		

三、本機ニ装着ノ發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシ
テ主要諸元次ノ如シ

地上馬力	減速比	正規回転数(毎分)	最大回転数(毎分)	圧縮比	気筒数	型式	名稱	區分		
								常時	燃料満載	落下タンク装備
最大	正規									
七一〇	六〇	二、四〇〇	二、六〇〇	六、七	九	星型、固定空気冷式	九七式六五〇馬力	一、五一〇	一、一〇〇	一、一〇〇
								四〇〇	四三七	六七四
								一、五四七		一、七八四

四.

(1) 本機ノ飛行性能次ノ如シ
水平飛行速度

高度(米)	突圧高度馬力		全長(米)	全径(米)	重量(米)
	正規	最大			
一、〇〇〇	四、〇〇〇米ニテ	六ハロ	一、一八〇	一、二八二	四二五
二、〇〇〇					
三、〇〇〇					
四、〇〇〇					
五、〇〇〇					

(2) 上昇時間

(3) 上昇限度 (米)

高 度 (米)	上 昇 時 間
一、〇〇〇	一分一〇秒
二、〇〇〇	二分〇五秒
三、〇〇〇	二分五九秒
四、〇〇〇	四分〇四秒
五、〇〇〇	五分二二秒

理 論

一二、七五〇

実 用

一二、二五〇

五、主 要 装 備

1. 射 撃 装 備

固 定 機 関 銃

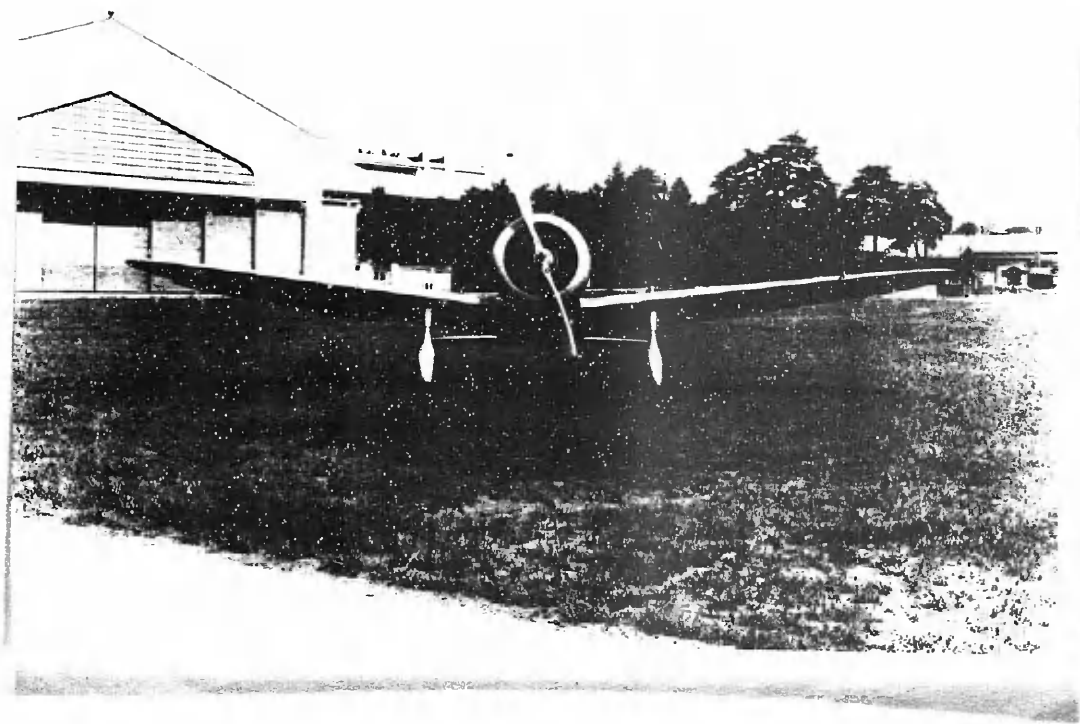
二 (実包 一、〇〇〇)

2. 無 線 装 備

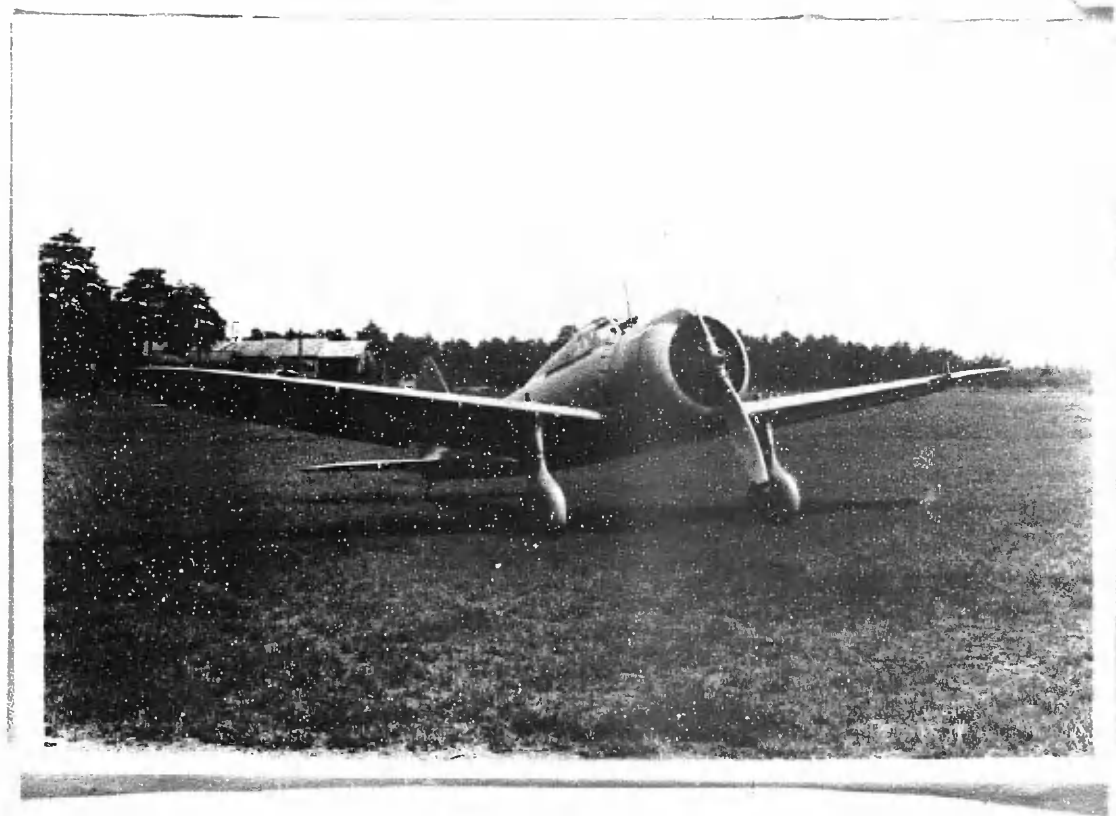
一 式

3. 電 気 装 備

一 式



0461



0462

0463

陸軍省へ



用済后焼却

九七式重爆撃機構造要領

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式重爆撃機構造要領

第一用 途

一、本機ハ主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機並諸施設ノ破壊ニ用
ウ

第二構造機能ノ概要

二、本機ハ中翼片持式單葉多座機ニシテ胴体兩側主翼前縁ニ九
七式八五〇馬力發動機各一基及フロペラ各一本ヲ併列ニ装

ス

三、本機ノ機体ハ胴体翼組尾翼降着装置操縦装置其ノ他胴体内
外附属諸装置等ヨリ成リ一部ニ鋼、マグネシウム合金及羽布
ヲ用ウル外主トシテアルミニウム合金ヲ用キ外表面ハ操縦
翼ヲ除キ他ハ全部アルミニウム合金平板張ナリ
機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ又必要ニ応シ偽装ノタ

メ塗色スルコトアリ

(4) 胴体ハ張殻式ニシテ概ネ楕円形断面ヲナシ三三箇ノ框ト四箇ノ縦梁並約二〇〇純間隔ニ配置セラレタル縦通材トヲ以テ骨格ヲ構成シ其ノ外面ハアルミニウム合金平板ヲ以テ被覆ス

(1) 胴体框第七ヨリ前方ハ一室ヲ形成シ前面及下面ニ多数ノ窓ヲ設ケ前端ニ射撃裝置下方ニ爆撃裝置後方ニ無線裝置ヲ備フ

(2) 胴体中部上面ニハ天蓋及側方ヲ開閉シ得ル密閉式風防ヲ有スル操縦席ヲ又下面ニハ開閉式扉ヲ有スル爆彈倉ヲ備ヘ操縦席後方右側ニハ燃料増加タンクヲ有ス

(3) 胴体後方上下部ニハ夫々銃座ヲ有シ後上方銃座ニハ前後摺動式開閉風防ヲ後下方銃座ニハ左右摺動式開閉風防ヲ備フ
又後上方銃座下面ニハ寫真裝置ヲ有ス

(4)

翼組ハ片持式單葉ニシテ中央翼及左右外翼ニ分レ外翼ハ胴体ニ固着サレタル中央翼ニ球關節ニヨリ結合セラル

(1) 中央翼ハ一本ノ前縁材七箇ノ主桁一箇ノ副桁及四箇ノ

框ヲ以テ骨格ヲ構成シ胴体下面ニ鉚着固定サレ補強材

ヲ設ケアルミニウム合金平板ヲ以テ被覆ス

平面経始ハ僅ニ前縁ヲ傾斜セル梯型ニシテ翼内ニ燃料

タンクヲ收容シ翼下ニ爆彈懸吊裝置ヲ有ス

(2) 外翼ハ應力外皮式構造ニシテ一本ノ前縁材及前後桁各

一、平板ト波板トヲ鉚着セル複合板並一一箇ノ框及多数

ノ小骨トヲ以テ骨格ヲ構成シアルミニウム合金板ヲ以

テ被覆ス

平面経始ハ翼端ヲ半円狀トスル梯型ニシテ框第一及第

ニニ亘リ發動機なせるヲ附シ翼内ニ燃料タンクヲ收容

ス、又發動機なせる外側前縁部ニハ翼断面ノ一部ヲ構成

スル滑油タンクヲ備フ

ニ

- (3) 外翼ハ外翼本体及副翼ノ二部ニ分解スルコトヲ得副翼ニハ下ケ翼ヲ備ヘ油圧ニヨリ開閉ナシ得
- (4) 補助翼ハ内方及外方補助翼ノ二ツヨリ成リ各ノ前縁ニ平衡面ヲ有シ一本ノ桁ニ多数ノ小骨ヲ附シ羽布張ニシタルモノニシテ各翼ニ平衡重錘ヲ備フ
- (イ) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定板及昇降舵垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル
- (1) 水平安定板ハ左右二箇ヨリ成リ前後桁補助桁及小骨トヲ以テ骨格ヲ構成シアルミニウム合金平板ヲ以テ被覆シ胴体中央ニ球関節ヲ以テ取付ケラル
- (2) 垂直安定板ハ一箇ニシテ其ノ構造全ク水平安定板ト同要領ニシテ胴体中心上面ニ取付ケラル
- (3) 昇降舵ハ左右二箇ヨリ成リ箱型断面ヲ有スル主桁及補助円管並多数ノ小骨トヲ以テ骨格ヲ構成シ羽布張ナリ左右昇降舵ハ一本ノ鋼管ヲ以テ連結セラレ後縁内方部

- ニハ平衡板ヲ又前縁ニハ平衡重垂ヲ備フ
- (4) 方向舵ハ一箇ニシテ其ノ構造昇降舵ト同要領ニシテ上端ニ平衡重垂ヲ備フ
- (二) 發動機架ハ著脱式ニシテ左右外翼ノ第一框及第二框ニ亘リ其ノ前縁部ニ取付ケラレ一箇ノ發動機取付板及八箇ノ支柱トヨリ成ル
- (木) 降着装置ハ脚組車輪、車輪制動装置、脚組引込装置及尾輪装置ヨリ成ル
- (1) 脚組ハ引込式ニシテ骨格ハ鋼管熔接式緩衝装置ハ油圧及圧搾空気圧ヲ併用ス
- (2) 車輪ハ九ル〆X三五〆高圧制動車輪ヲ使用ス
尚脚組ヲ換装シテ低圧車輪ヲ装着スルコトヲ得
- (3) 車輪制動装置ハ空気式車輪制動機操作機ヲ使用シ圧搾空気ハ空気圧縮機ニヨル外地上ヨリモ補充シ得
- (4) 脚組引込装置ハ油圧式ニシテ手動ニヨリ営ミ得

- (5) 尾輪裝置ハ旋回式ニシテ四三〇メ一ニハ高压尾輪及マ
ケネシウム合金製支台並鋼製又狀金具ヨリ成リ緩衝裝
置ハ油圧及圧搾空氣圧ヲ併用ス
- (6) 操縱裝置ハ複操縱裝置ニシテ昇降舵、方向舵補助翼各操縱
裝置並昇降舵及方向舵平衡板操作裝置ヨリ成ル
- (7) 各操縱裝置系統ハ一部ニ鋼線ヲ使用スル外總テ槓桿及
連接桿ノ結合ヨリ成ル
- (8) 昇降舵及方向舵平衡板操作裝置ハ転輪鎖鋼索及連接桿
ヨリ成リ正操縱席ニ於テ操作ナシ得ル如ク構成セラル
又平衡板ハ操舵ニ伴ヒ自動的ニ運動シ操舵反動ヲ軽減
シ得ル如クナシアリ
- (9) 正操縱席ニハ上下調整裝置ヲ副操縱席ニハ前後移動裝
置ヲ備フ
- (10) 附屬諸裝置ハ燃料、始動及給油裝置等ヨリ成ル
- (11) 燃料裝置ハ胴体及翼内ダンク手働ポンプ發動機送油ホ

ンポ集合濾過器及此等ヲ連結スル配管ヨリ成ル
胴体内タンクニハ非常排油装置ヲ備フ
燃料ノ容量ハ概ネ次表ノ如シ

タンクノ名稱及位置	容量(立)		小計(立)
	外翼内	中央翼内	
主タンク	六三〇×二 一三四〇	二八五×二 五七〇	一八一〇
洗滌タンク	左中央翼内	三〇	九六五
補助タンク	胴体内前方	四三五	
	胴体内外方	五〇〇	二
総容量	二七七五		

- (2) 始動装置注射ポンプ並手働及電気式慣性始動機ヲ備ヘ
電源ハ地上及機上何レヨリモ使用スルコトヲ得
- (3) 給油装置ハ滑油タンク滑油冷却器滑油濾過器發動機ノ
給油ポンプ及此等ヲ連結スル配管等ヨリ成ル
滑油タンクハ發動機房外方外翼前縁ニ装着セラル

四 本機ノ發動機ハ九七式ハ五〇馬力一四気筒複列星型空気冷式ニシテ気化與圧分配臭火及運転ノ諸装置ヲ備ヘ尙燃料供給並始動装置ヲモ附屬セシメ得ル構造ヲ有ス其ノ主要諸元及性能次ノ如シ

(1) 諸元

気筒径

衝程

重量

發動機ノ外径

回転ノ方向(飛行方向ニ視テ)

燃料及同消費率(航空全揮発油ヲ用キ)

滑油及同消費率(航空機用ヨリ油ヲ用キ)

(2) 性能

正規回転数

最大回転数

一四六粒

一六〇粒

約六〇五粒

約二五五米

右廻リ

二六〇馬力時ヲ標準トス

一〇馬力時ヲ標準トス

二二〇〇

二四〇〇

回転/毎分

回転/毎分

正規地上馬力

約七五〇

馬力

最大地上馬力

約九五〇

馬力

正規與圧高度馬力(高度四四〇米ヲ)

約八五〇

馬力

最大與圧高度馬力(高度三六〇米ニテ)

約一〇六〇

馬力

五、アロペラハ金屬製三翼可変節ナリ

六、裝備

(1) 射撃裝置

機関銃ハ前方及後下方ニ試製單銃身旋回機関銃
 一組ヲ後上方ニ八九式旋回機関銃(特一組ヲ装ス
 各銃ニハ特別ナル銃架ヲ備フ
 携行束包ハ前方五一發後上方七ニ發後下方五八四發
 ニシテ合計一八一五發トス

(2) 爆撃裝置

懸吊投下及照準ノ諸裝置ヨリ成リ爆撃操作機ヲ装シ五〇
 觔一〇〇觔ニ五〇觔及五〇〇觔彈ヲ各総重量一〇〇〇觔

(ハ) 以内搭載シ畢發同時又ハ連続投下スルコトヲ得
操縦者用計測器ノ主ナルモノ次ノ如シ

高度計

一

昇降計

一

速度計

一

旋回指示器

一

羅鍼盤

一

遠方回轉計

二

飛行時計

一

気筒温度計

一

滑油温度計

一

滑油油壓計

一

燃料油圧計

一

吸入圧力計

二

油量計

一組

自動操縦機

一式(但シ人工水準器及全指向器ト交換裝備シ得)

(ニ) 同乗者用計測器ノ主ナルモノ次ノ如シ

高度計

一

速度計

一

飛行時計

一

羅鍼盤

一

大気温度計

一

(ホ) 無線装置一組ヲ裝備ス

- (ハ) 其ノ他電気装置、落下傘、音響連絡器、通話器、二号英火開閉器、始動電源、接続口等ヲ備フ
- (ニ) 特別裝備トシテ小艇空寓、真機ヲ装着ス
- 七、其ノ他必要ナル事項
- (イ) 本機ハ本邦軌道ニヨル輸送可能ナリ
- (ロ) 本機ハ機体構成ノ各部結合ハ鉄又ハホルトナルヲ以テ、部分の交換及修理等容易ナリ

第三 主要諸元

全幅	約二二、五〇〇米
全長	約一六、〇〇〇米
全高	約四、三五〇米
主翼面積 (補助翼共)	約六九、六平方米
空虚重量	約五、一一一斤
全備重量 (常時特別)	約七、五七三斤 約八、四一二斤

其他各種附屬品	通話器	落下傘	電氣裝置	計測器裝置	無線通信裝置	爆擊裝置	火器	裝備品	爆炸彈	座席	滑油	燃料	搭載量
							〔旋回機關銃 單銃身旋回機關銃〕		常時別	常時別	常時別	常時別	常時別
									約一五〇立	約二七五立	約三三五立	約四六二立	約五六二立
									約五〇〇立	約九四五立	約一二七一立	約一四六一立	約一八六一立
一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式組	一式組	約五〇〇立	約九四五立	約一二七一立	約一四六一立	約一八六一立

計約三、〇〇〇斤

備考

特別トハ寫眞裝備及爆彈ノ一部ニ代ヘテ燃料ヲ滿載セ
ル場合ヲ云フ

主要性能

上昇限度 (理論)

九、一〇〇米

同 (實用)

八、六〇〇米

上昇時間

三、〇〇〇米迄

八分〇秒

水平飛行速度

一、〇〇〇米ニ於テ 三八九^秒時

一、〇〇〇米ニ於テ 四二五^秒時

一、〇〇〇米ニ於テ 四三二^秒時

一、〇〇〇米ニ於テ 四二六^秒時

0477



九七式重爆撃機審査成績概要

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式重爆撃機審査成績、概要

第一、審査、目的

昭和十一年三月二十日航秘第三二五號新重爆撃機試作ニ関スル件連ニ基キ試作セル重爆撃機ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二、判決

本機ハ要求セラレタル諸條件ヲ充足シ重爆撃機トシテ適當ナルモノト認ム

第三、審査一般成績

一、本機ノ構造諸元及飛行性能別紙ノ如シ

二、行動半径

行動半径ハ要求條件ヲ充足シ爆彈七五〇磅ヲ搭載シ六〇〇

ニ

- 料ニシテ行動、タメ一時間、餘裕ヲ有ス
 尚爆彈ヲ五ロロ延ニシ燃料満載セル場合ニ於テハ約一四ロロ
 料ニシテ行動、タメ一時間ハ餘裕ヲ有ス
- 三、操縱性能
 操縱性能ハ良好ニシテ諸運動、實施容易ナリ
- 四、爆撃性能
 爆撃性能ハ良好ニシテ晝夜共爆撃、實施容易ナリ
- 五、自衛性能
 自衛性ハ單機又ハ編隊ニ於テ良好ナリ
- 六、構造強度
 陸軍飛行機構造假規程ニ基キ製作セラレ構造適當ニシテ強度十分ナリ
- 七、耐久性及取扱
 耐久性ニ富ミ取扱容易ナリ
- 八、本機ハ本邦軌道ニ依ル鐵道輸送可能ナリ

第四、審査経過、概要

一、第一次

昭和十年九月九日ヨリ九月十七日ニ亘リ航技秘第四一號第四二號及第五二號ヲ以テ中島、三菱、川崎三社ニ丈々新重爆撃機研究上ノ参考資料ヲ與ヘ研究ニ着手ス

越エテ昭和十一年一月前詔三社ノ新重爆撃機基礎設計ニ關スル審査ヲ終了シ昭和十一年二月六日航秘第一一九號新重爆撃機審査研究ニ關スル件達並昭和十一年三月二十日航秘第三二五號新重爆撃機試作ニ關スル件達ニ基キ中島及三菱両者ニ試作セシムルコトニ決定シ両社ニ試作ニ關スル指示ヲ與フ

爾來實大模型各設計計算書及製作圖面等ニ就キ指導並審査シ所要ノ風洞試験及荷重試験等ヲ實施シツ、極力製作ヲ促進シ昭和十一年十二月ヨリ昭和十二年三月ニ亘リ逐次各試作ニ機ヲ完成セシヲ以テ立川ニ於テ各種試験ヲ實施シ其ノ

間昭和十二年四月十九日ヨリ四月二十四日ニ亘リ茨松陸軍飛行學校職員ノ参加ヲ得引続キ昭和十二年五月一日ヨリ五月十日ニ亘リ茨松ニ於テ茨松陸軍飛行學校職員参加ノ許ニ爆撃射撃試験ヲ實施シ第一次審査ヲ終了ス

ニ 第二次

第一次審査ノ結果「キニ」ニ就キ裝備發動機「ハ六」甲ヲ「ハ五」ニ換装シ且機体ニ所要ノ改修ヲナシ審査ヲ続行スルニ決シ同年六月増如試作ニ関スル指示ヲ三菱ニ與ヘタリ爾來極力設計製作ヲ急キ特ニ支那事変ニ際會シ極力業務ヲ促進シ同年十月末第三号機ノ試作ヲ完成セシヲ以テ同年十一月上旬ヨリ増如試作機ニ関スル審査ヲ開始シ第三号機並第四号機ニ就キ立川ニ於テ各種試験ヲ實施シ其ノ間茨松ニ於テ茨松陸軍飛行學校職員参加ノ許ニ爆撃射撃試験ヲ實施シ昭和十二年末審査ヲ概ネ終了シ制式機トシテ適當ト認ムル判決ヲ得タリ

別紙第一

九七式重爆撃機構造ノ概要諸元飛行性能

一、構造ノ概要

本機ハ中翼片持式單葉多座機ニシテ機体ハアルミニウム合金ヲ主材トシ胴体両側主翼前縁ニ九七式八五〇馬力發動機各一基ヲ併列ニ装シプロペラハ金屬製三翼可変節ニシテ脚ハ引込式ナリ

其ノ構造寫真第一、第二ノ如シ
二、本機ノ主要諸元次ノ如シ

搭載量(座)	搭載量(座)		空虛重量(座)	主翼面積(補助翼共)(平方米)	全高(米)	全長(米)	全幅(米)
	特	常					
	別	時					
	三三〇	二四六	五一	六九	四三	一六	二二

三、本機ニ裝著ノ發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシ
テ其ノ主要諸元次ノ如シ

備考	爆 彈		全備重量 (kg)	
	(駐)		特 別	常 時
特 別	特 別	常 時	特 別	常 時
尚燃料ヲ輕減スルコトニヨリ一〇〇〇kg迄迄搭載シ得	五〇〇	七五〇	八四一二	七五七三
特別トハ寫眞裝置及爆彈一部ニ代ヘ燃料ヲ搭載セル場合ヲ云フ				

機ニ裝著ノ發動機ハ規定ノ型式試驗ニ合格セルモノニシ
其ノ主要諸元次ノ如シ

名	稱	九七式八五〇馬力發動機
型	式	十四氣筒複列星型空冷式
圧縮比		六・七
プロペラ軸回轉方向		飛行方向ニ見テ右廻リ
減速比		〇・六八七五
正規回轉數(毎分)		二、二〇〇
最大回轉數(毎分)		二、四〇〇

四、本機ノ飛行性能次ノ如シ

1. 水平飛行速度

地上馬力正規	地上馬力最大	與圧高度馬力 正規	與圧高度馬力 最大	全長(米)	全径(米)	全重(匁)
七五〇	九五〇	四四〇〇米ニテ 八五〇	三六〇〇米ニテ 一〇六〇	一、三三五	一、二五五	六〇五

高度(米)	最大水平速度(新/時)
一〇〇〇	三八九
二〇〇〇	四〇七
三〇〇〇	四二五
與圧高度(三三〇〇)	四三二
四〇〇〇	四三二

五 主要裝備

1. 射擊裝備

前方	單銃身 旋回機 閉銃	一
後上方	八九式 旋回機 閉銃	一
後下方	單銃身 旋回機 閉銃	一

3. 上昇限度

理	論
完	用
	九、一、〇、〇
	八、六、〇、〇

2. 上昇時間

高	度(米)	上	昇	時	間
一	〇、〇、〇			三	分 五 秒
二	〇、〇、〇			五	分 四 一 秒
三	〇、〇、〇			八	分 〇 秒
四	〇、〇、〇			一	〇 分 四 〇 秒
五	〇、〇、〇			四	二 六

2. 爆擊裝備。

標準爆彈搭載量

徑シ標準行動半径
下ニ望ニ應シ思望

搭戴彈種

所要ニ應シ五、五彈三〇〇席ヲ搭載スルコトヲ得

3、無線裝備

式

4. 自働操縱機

一
式

5. 寫真裝備（特別裝備）

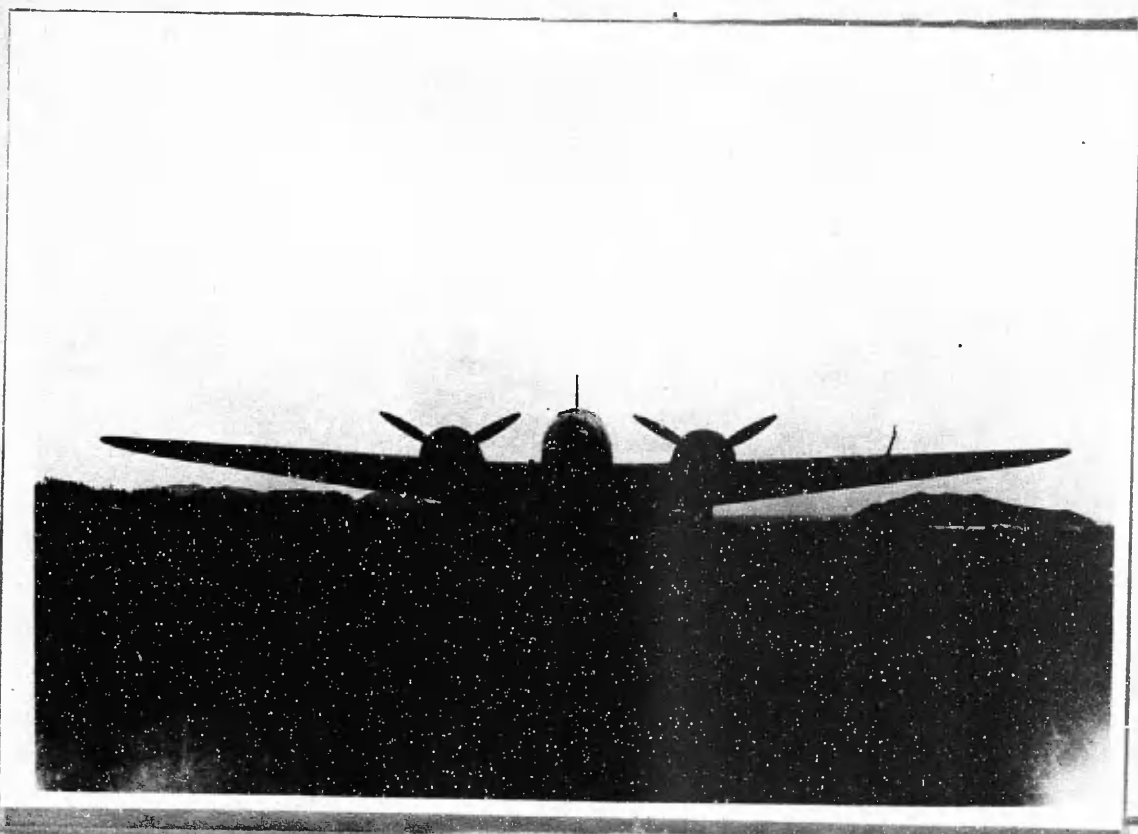
一
戎

七
五
口
聯

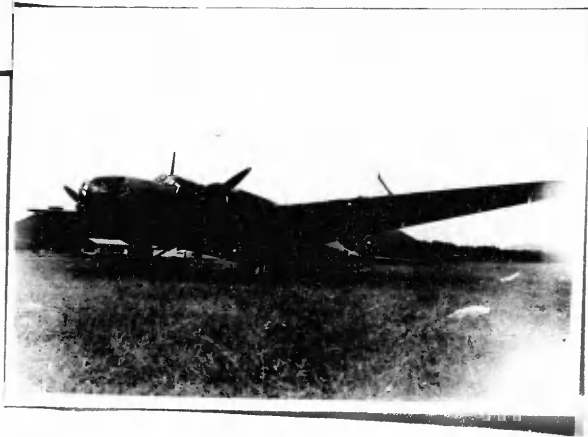
一、〇〇〇 席に搭載スルコトヲ得

五〇匹、一〇〇匹、二五〇匹、五〇〇匹、一四種トス

0487



0488



0489

陸軍省へ



九七式輕爆撃機構造要領

昭和十二年三月
陸軍航空本部

九七式輕爆撃機構造要領

第一 用途

一、本機ハ主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機ヲ大ナル威力ヲ要セサル諸施設ノ破壊ニ用ウルモノトス

第二 構造機能ノ概要

二、本機ハ準中翼片持式單葉複座機ニシテ九七式八五〇馬カ発動機一基及「プロペラ」一本ヲ装ス

三、本機ノ機体ハ胴体、翼、尾翼、降着装置、操縦装置其ノ他胴体内外附属諸装置等ヨリ成リ一部ニ鋼及「マグネシウム」合金ヲ用ウル外主トシテ「アルミニウム」合金ヲ用キ、各操縦翼ハ羽布張トス、機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ又必要ニ應シ偽装ノ為塗色スルコトアリ

(4) 胴体ハ「アルミニウム」合金板製ノ縦通材、円框及外鋸ヲ主板

トスル楕円形張殻式構造ニシテ胴体主体、発動機架及胴体内諸装置ヨリ成ル

(1) 胴体主体ハ操縦席、胴体タンク後部同乗席後部胴体ヨリ成リ、操縦席後面ヨリ同乗席前面ニ至ル胴体下面ニハ午動開閉式爆弾倉ヲ有シ、操縦席ヨリ後方同乗者席ニ至ル

胴体上面ニハ開閉式透明風防ヲ附ス

(2) 胴体内諸設備トシテ操縦席内ニ操縦装置、諸計器、始動装置及爆撃装置ヲ同乗席内ニ無線寫眞射撃及其他ノ諸計器ヲ備ヘ、両座席内ニ照明、暖房、冷却ノ諸装置ヲ施ス

(3) 発動機架ハ胴体前端ニ四本ノ「ボルト」ヲ以テ取付ケラレ着脱容易ニシテ其ノ前面ニ緩衝用「ゴム」ヲ装着シ、全気筒円周ニ亘リ「アルミニウム」合金板製ノ発動機整流筒及其ノ後縁ニ開閉式「カウルフラツプ」ヲ附ス

(4) 翼組ハ片持式單葉ニシテ外翼及中央翼ヨリ成リ之ニ補助

- 翼及下ケ翼ヲ装シ外翼ニハ上反角ヲ附ス
- (1) 外翼ハニ桁式箱型主桁ト張殻式構造ヲ有スル小骨及外板ヨリ成リ其ノ後縁ニハ補助翼及下ケ翼ヲ左外翼前縁ニハ翼銃一ヲ装ス
- (2) 中央翼ハ胴体ト一体ニ構成セラレ前桁ニハ脚柱ヲ取付ケ前縁及前後桁間ニハ夫々前縁「タンク」及翼内「タンク」ヲ装ス
- (3) 中央翼ト外翼トハ前後主桁上下笠板部ニ於テ各一本ノ「パーボルト」ニヨリ結合セラル
- (4) 補助翼ハ左右外翼ニ各一箇ヲ有シ「アルミニウム」合金板製小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以テ覆フ
- (5) 下ケ翼ハ「アルミニウム」合金板製小骨及外板ヨリ成リ中央翼及外翼ノ後縁部ニ装着セラレ油圧式手動「ポンプ」ニヨリ作動ス
- (イ) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定

- 板及昇降舵、垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル。
- (1) 水平及垂直安定板ハ「桁式」アルミニウム合金板製片持式ニシテ、アルミニウム合金板張トス。
- (2) 方向舵及昇降舵ハ「アルミニウム合金板製桁及小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布張セルモノニシテ昇降舵ニハ飛行中調整可能ナル平衡板ヲ装着シ操舵力ヲ軽減ス。
- (一) 降着装置ハ脚組車輪及尾輪装置ヨリ成ル。
- (1) 脚組ハ單脚片持式ニシテ「アルミニウム合金管製脚柱及緩衝装置ヲ收容スル鋼管製脚柱ヨリ成リ緩衝装置トシテハ油圧緩衝器ヲ使用ス。
- (2) 車輪ハ六〇×一七五高圧制動車輪ニシテ車輪覆ヲ有ス尙脚柱ヲ換装シテ低圧車輪ヲ装着スルコトヲ得。
- (3) 尾輪装置ハ油圧緩衝支柱及尾輪ヨリ成ル。
- (ホ) 操縦装置ハ單操縦装置ニシテ補助翼、方向舵、昇降舵ノ各操縦装置及下ケ翼ノ昇降舵平衡板操作装置ヨリ成ル。

(1) 附属諸装置ハ燃料、始動及給油装置等ヨリ成ル

(2) 燃料装置ハ燃料タンク送油装置諸配管等ヨリ成ルタン

クハ左右前縁左右翼内及胴体タンクヨリ成リ前縁タン

クハ錫鍍鋼板他ハアルミニウム合金板製トシ胴体ニハ

別ニ洗滌タンクヲ設ク

送油ハポンプ式トス

(3) 始動装置ハ手動式慣性始動機ヨリ成ル

(4) 給油装置ハ發動機ノ油ポンプ滑油タンク同諸配管ヨリ

成リ滑油タンクハ胴体前端ニ装着ス

四 本機ノ發動機ハ九七式八五〇馬力十四気筒複列星型空冷

式ニシテ気化蒸気分配弁及運転ノ諸装置ヲ備ヘ尙燃料供

給、始動装置ヲモ附属セシメ得ル構造ヲ有ス其ノ主要諸元

及性能次ノ如シ

(1) 諸元

気筒径

一四六セ

性能

滑油及消費率	(航空機用「ヒマシ」油ヲ用ル)		
燃料及同消費率	(^費 航空ハ七揮発油ヲ用ル)		
プロペラノ回転方向	(飛行方向ニ視テ)		
發動機ノ外径	約二五五米		
重量	約六〇五斤		
衝程	一六〇糎		
		右廻リ	
	二六〇瓦 馬力時ヲ標準トス		
	一〇瓦 馬力時ヲ標準トス		

(イ) 射撃装置

八九式固定機関銃(三型) 甲一銃実包ニ〇〇発環型照準器一組
 茲八九式旋回機関銃(特)一銃実包五〇〇発ヲ裝備ス

(ロ) 爆撃装置

懸吊投下及照準ノ諸装置ヨリ成リ三〇〇斤ヲ標準トシ總重量四五〇斤以内ノ爆弾ヲ搭載シ水平及急降下ニ於ケル單發並連続投下ヲ行フコトヲ得

(ハ) 無線装置

一組ヲ裝備ス

(ニ) 写真装置

一組ヲ裝備ス

(ホ) 計測器装置

回轉計一箇、速度計二箇、高度計二箇、旋回指示器一箇、羅針盤二箇、飛行時計二箇、昇降計一箇、人工水準器一箇、人工指向器一箇、気筭温度計一箇、吸入圧力計一箇、燃料油圧計一箇、滑油油圧計一箇、滑油温度計一箇、吸気「ポンプ」一箇等ヲ装着ス

(ヘ) 電気装置

機上電氣器具一組、及照明用諸灯番ヲ装着ス

(1) 各種附屬品

落、下傘ニ箇九〇式小型照明彈五箇等ヲ装着ス

七、其ノ他必要ナル事項

(1) 本機ハ本邦軌道ニヨル輸送可能ナリ

(10) 本機ハ機体構成ノ各部結合ハ銲又ハ「ボルト」止ナルヲ以テ
部分の交換及修正等容易ナリ

第三、主要諸元

全 幅

約一四五五〇米

全 長

約一〇三四〇米

全 高

約三、六四五米

主翼面積(補助翼共)

約三〇、五八〇平方米

空虚重量

約二、四六噸

主要性能

写真装置

計測器装置

電気装置

各種附属品

上昇限度(理論)

上昇限度(実用)

上昇時間

水平飛行速度

一式
一式
一式
一式

八、八〇〇米

八、五七〇米

五、分五六秒

三、〇〇〇米迄

一、〇〇〇米ニ於テ

三、〇〇〇米ニ於テ

三、四〇〇米ニ於テ

四、〇〇〇米ニ於テ

五、〇〇〇米ニ於テ

三七五秒/時

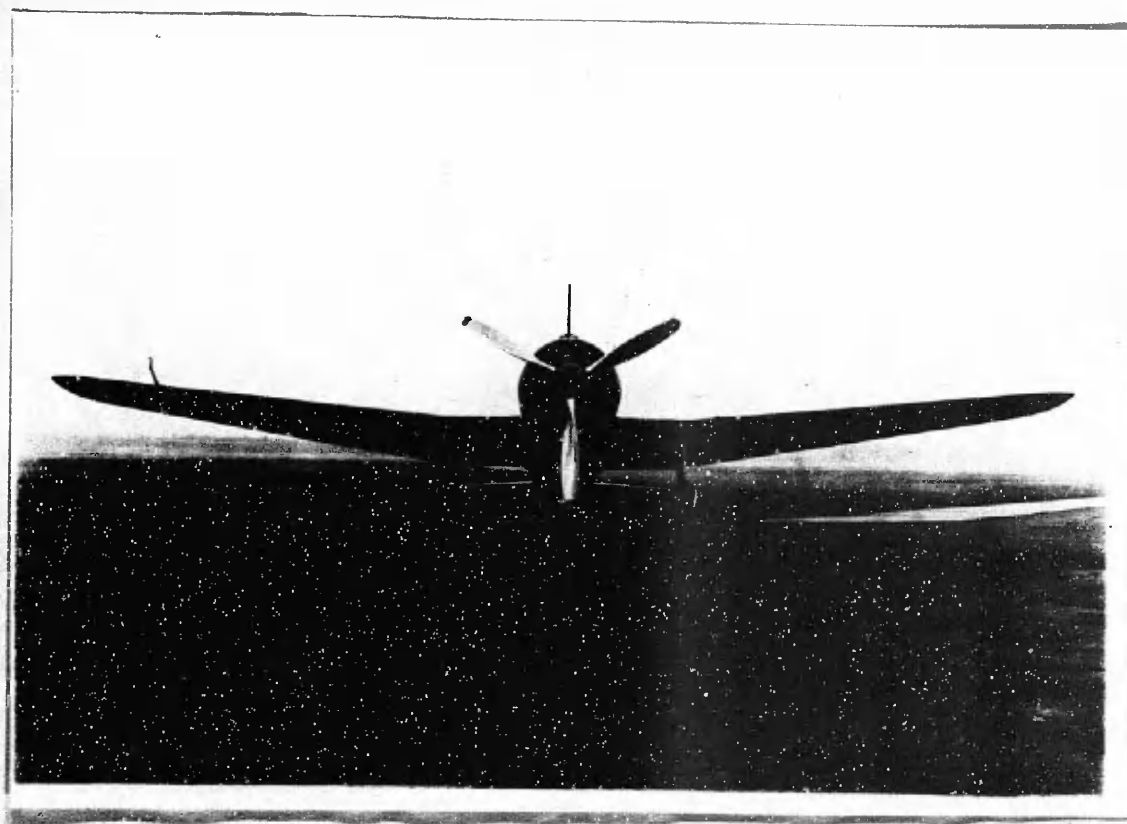
四一三秒/時

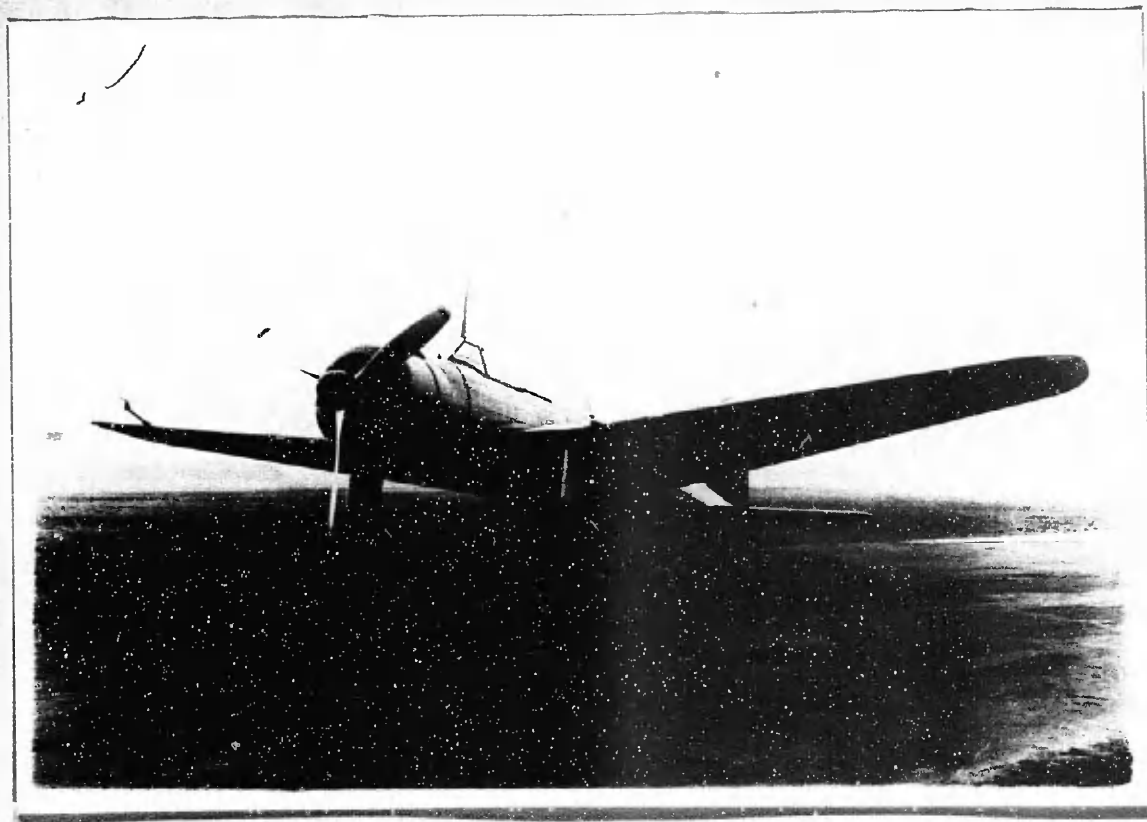
四二一秒/時

四二三秒/時

四二二秒/時

0500





0501



九七式輕爆擊機審査成績概要

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式輕爆撃機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十一年五月五日航秘第五五一号新輕爆撃機試作ニ関スル件達ニ基キ試作セル輕爆撃機ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判 決

本機ハ要求セラレタル諸條件ヲ充足シ輕爆撃機トシテ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般成績

- 一 本機ノ構造諸元及飛行性能別紙ノ如シ
- 二 行動半徑
- 行動半徑ハ要求條件ヲ充足シ爆彈三〇〇駄ヲ搭載シ五〇〇

料ニシテ行動ノタメ一時間ノ餘裕ヲ有ス。尚標準爆彈量ニ於テ燃料ヲ滿載セル場合ニハ約八〇〇料迄延長之得且一時間ノ餘裕ヲ有ス

三、操縦性能
安定良好且操縦一般ニ容易ニシテ操縦性能良好ナリ

四、爆撃性能
爆撃性能ハ良好ニシテ水平竝急降下ノ單發竝連続爆撃ハ容易ナリ

五、自衛性能
自衛性ハ適良ナリ

六、構造強度

陸軍飛行機構造假規程ニ基キ製作セラレ構造適當ニシテ強度十分ナリ

七、耐久性及取扱

耐久性ニ富ミ取扱容易ナリ

八 本邦鐵道ニ依ル鐵道輸送可能ナリ

第四 審査經過ノ概要

一 第一次

昭和十一年二月四日航技秘第四七号ヲ以テ中島、三菱、立川、崎四社ニ對シ新輕爆擊機研究上ノ參考資料ヲ與ヘ新輕爆擊機ノ設計研究ニ着手シ同年四月基礎設計ノ審査ヲ行ヒ同年五月五日航秘第五五一号新輕爆擊機試作ニ關スル件並ニ基キ三菱及川崎兩社ニ試作ヲ命シタリ

爾後所要ノ設計試作指導ヲ實施シ昭和十二年二月末ヨリ四月末ニ亘リ逐次試作機完成セシヲ以テ當所及浜松陸軍飛行學校ニ於テ基本審査ヲ行ヒ昭和十二年六月第一次審査ヲ終了ス

二 第二次

第一次審査ノ結果ヲ三十ニ就ギテハ裝備發動機ハ六甲ヲハ

五ニ換装シ且機體ニ所要ノ改修ヲナスニ決シ同年七月増加
 試作ニ關スル指示ヲ三菱ニ與ヘ十六機ノ増加試作ニ着手ス
 三爾後支那事變ニ際會シ極力製作及審査ヲ促進シ同年十月上
 旬ヨリ下旬ニ亘リ逐次二機完成セシニ就キ第三号機ヲ以テ
 志務原及立川ニ於テ各種基本試験ヲ實施ス引続キ同機ヲ以
 テ木更津海軍飛行場ニ於テ浜松陸軍飛行學校職員参加ノ下
 ニ爆撃及射撃ヲ實施シ又第四号機ヲ以テ第一次性能試験ヲ
 行ヒ昭和十二年十一月概テ審査ヲ終了シ制式機トシテ適當
 ト認ムルノ判決ヲ得タリ

別紙第一

九七式輕爆擊機構造，概要

諸元飛行性能

一、構造、概要

本機ハ準中片持式單葉複座機ニシテ機體ハアルミニウム合金ヲ主材トシ一部ニ鋼ヲ使用シ胴体前段ニ九七式八五〇馬力發動機一基ヲ装着シ「プロペラハ金屬製三翼可変節又ハ分離式トス其ノ構造ハ寫真第一第二ノ如シ

二、本機，主要諸元次，如シ

全幅(米)

一
四
五
五
▽

全長(米)

一
▽
三
四
▽

全 高(米)

三、六、四、五、

主翼面積、補助翼共(平方米)

三
▽
五
八
▽

空虛重量(配)

二
二
四
六

搭載量 (瓩)

一、一
三、一
三、六
四、八

全備重量(砵)

三、三、
五、四、
一、一、
四、四、

爆彈 三ノ底ヲ標準トシ四五口底マテ搭載シ得

三、本機ニ装着ノ發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシ
 テ其ノ主要諸元次ノ如シ

名	稱	九七式ハ五〇馬力發動機
型	式	十四気筒複列星型空気冷式
壓	縮 比	六・七
マ	フ・マ・ラ軸回転方向	飛行方向ニ見テ右廻リ
減	速 比	四・六八七五
正	規回転数（毎分）	二、二〇〇
最	大回転数（毎分）	二、四〇〇
地	上 馬 力	正 規 七五〇 最 大 九五〇
與	壓高度馬力	正 規 四四〇 最 大 六六〇 米ニテ一〇六〇
全	長（米）	一・三三五
全	徑（米）	一・二五五
重	量（キ）	六〇五

四、本機ノ飛行性能次ノ如シ

水平飛行速度

高	度 (米)	最大水平速度	度/時
一	▽▽▽	三七五	
二	▽▽▽	三九四	
三	▽▽▽	四一三	
與圧高度	三、四▽▽	四二一	
四	▽▽▽	四二三	
五	▽▽▽	四二二	

2. 上昇時間

高	度(米)	上昇時間
一、	▽▽▽	二分〇六秒
二、	▽▽▽	四分〇秒
三、	▽▽▽	五分五六秒
四、	▽▽▽	八分〇八秒
五、	▽▽▽	一〇分三七秒

3. 上昇限度（米）

理論
實用

八八〇〇
八五七〇

五、主要裝備

1. 射撃裝備

前方用八九式固定機關銃（二型） 甲一組（実包二〇〇）
後方用八九式旋回機關銃（特） 一組（実包五四〇）

2. 爆撃裝備

標準爆彈搭載量 三〇〇吨
但標準行動半径ニ於テ所望ニ應ジ總量四五〇吨迄搭載ス
ルコトヲ得

搭載彈種一五吨、五〇吨、一〇〇吨ノ三種トス

3. 無線裝備

一式

4. 寫真裝備（特別裝備）一式

0511

陸軍省へ



陸軍省
航空部

九七式司令部偵察機構造要領

昭和十三年十二月
陸軍航空本部

九七式司令部偵察機構造要領

第一 用途

一、本機ハ主トシテ神速ナル情報ノ蒐集及連絡ニ用ウルモトス

第二 構造機能ノ概要

二、本機ハ低翼片持式單葉複座機ニシテ九四式五五〇馬力發動機一基及プロペラー一本ヲ装ス。

三、本機ノ機体ハ胴体、翼組、尾翼降着装置操縱裝置其ノ他胴体内外附屬諸裝置等ヨリ成リ主トシテアルミニウム合金及鋼ヲ使用ス。操縱翼ハ帆布張リトシ其ノ他ハ全部アルミニウム合金板ヲ以テ被覆ス。機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ長ク平滑ナラシメアリ。

(四) 胴体ハ胴体主体、發動機架及胴体内諸裝置ヨリ成ル。

- (1) 胴体主体ハ「アルミニウム」合金板製楕圓型断面ヲ有スル張殻式ニシテ一六箇ノ框ト一六本ノ縦通材トヨリ成リ座席房ノ上部ニハ「透明板」張ノ整形セラレタル天蓋ヲ有ス中央翼及垂直安定板ハ胴体主体ト一体ニ構成セラ
- (2) 発動機架ハ着脱容易ニシテ発動機気筒圓周ニ五リ「アルミニウム」合金板製発動機整流筒ヲ附ス
- (3) 胴体第二、第五框間ヲ操縦座席房トシ第五、第九框間ノ同乗座席房トス操縦座席房ニハ操縦裝置、発動機操作裝置、各種計器ヲ同乗者席房ニハ射撃無線、寫眞裝置及數箇ノ計器ヲ備ヘ又兩座席房ニハ照明裝置及保安具ヲ有ス
- (四) 翼組ハ胴体ト一体ヲ成セル中央翼及其ノ左右ノ片持式外翼ヨリ成リ左右外翼ニハ上反角ヲ附與ス
- (1) 中央翼ハ前後桁ニ依リ胴体ト一体ニ構成セラレ下面ハ胴体下面ト一致シ胴体トノ附根ハ整形セラレアリ

- 前後桁間ニ二箇ノ燃料タンクヲ装着シ後桁ノ後方ニ下
 ケ翼ヲ有ス 前桁両端前面ニ脚ヲ装着ス
- (2) 外翼ハ中央翼前後桁両端ニ片翼四本ノ「テーパーボルト」
 ニ依ル結合セラル外翼ニ各一箇ノ補助翼ヲ有シ 左外
 翼ニハ着陸燈及速度計用「ピトー」管ヲ有ス
- (3) 中央翼及外翼ハ前後桁小骨及外板ニ依リ構成セラレ下
 ケ翼ハ一本ノ桁小骨及外板(下面ノ「ミ」)ヨリ成リ補助翼ハ
 一本ノ桁小骨及胴布ヨリ成ル 各翼中央トシテ四號「ア
 ルミニウム」合金板製ナリ
- (ハ) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ水平尾翼ハ水平安定板及
 昇降舵垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル
- (1) 水平安定板ハ「アルミニウム」合金板製ノ半片持式ニシテ
 前後桁小骨及外板ハ一体ニ銲着セラル
- (2) 垂直安定板ハ「アルミニウム」合金板製ニシテ胴体ト一体ヲ
 爲シ附根ハ胴体天蓋後部及胴体後端ト共ニ整形セラル

- (3) 昇降舵及方向舵ハ表面羽布張ニシテ其ノ他ハ主トシテアルミニウム合金板製ナリ。
 方向舵ノ上部ハ張出平衡部ヲ有シ其ノ内部ニ鉛ヲ固着シ質量平衡ヲ形成セシム。昇降舵ハ左右共後縁内側ニ飛行中操作シ得ル平衡板ヲ有ス。
- (二) 降着装置ハ脚組車輪及尾輪装置ヨリ成ル。
 (1) 脚組ハ單脚式ニシテ内部ハ空氣及油併用ノ緩衝装置ヲ形成ス。下部ハ又狀金具ヲ有シ之ニ七五〇メ一ニ五高圧制動車輪ヲ装着シ車輪覆ヲ附ス。
 尚脚柱ヲ換装シテ低圧車輪ヲ装着スルコトヲ得
- (2) 尾輪ハ一五〇メ七五ソリッド尾輪ニシテ上方ニ空氣及油併用ノ緩衝支柱ヲ有ス。
- (木) 操縦装置ハ補助翼、昇降舵、方向舵ノ各操縦装置及油圧式下ケ翼操作装置並昇降舵後縁平行板操作装置ヨリ成ル。
- (ハ) 附屬諸装置ハ燃料、始動及給油装置等ヨリ成ル。

- (1) 燃料装置ハ燃料タンク送油装置諸配管等ヨリ成ル
 ンクハ翼内ニ二箇胴体内ニ一箇ヲ有シ夫々中央翼又ハ
 胴体結構ノ一部ヲ爲シ錫鍍鋼板製ナリ 送油ハポン
 式トス
- 尚別ニ特殊裝備トシテ翼前縁ニ二箇及胴体内ニ一箇ノ
 増加タンクヲ装着スルコトヲ得
- (2) 始動装置ハ如動機受金及手動式慣性始動機ヨリ成ル
- (3) 給油装置ハ弁動機ノ油ポンプ滑油タンク同配管類ヨリ
 成リ滑油タンクハアルミニウム板製ナリ
- 四、本機ノ弁動機ハ九四式五五口馬力九気筒星型固定空気冷式
 ニシテ気化、與圧、分配、点火、及運轉ノ諸装置ヲ備ヘ尚燃料供給
 及始動装置ヲモ附屬セシメ得ル構造ヲ有ス 其ノ主要諸元
 及性能ハ次ノ如シ
- (イ) 諸元
 気筒径

一六〇耗

三

五、プロペラハ金屬製ニ翼分離式ナリ
六、裝備

(四) 性能

衝程 一八〇センチ
 重量 約五〇キログラム
 發動機ノ外径 約一三〇センチ
 プロペラノ回転方向 進行方向ニ視テ
 燃料及同消費率 (航空ハ七揮発油ヲ用キ) 石廻リ
 滑油及同消費率 (航空機用「ヒマシ油」ヲ用キ) 二四〇瓦/馬力時ヲ標準トス
 一〇瓦/馬力時ヲ標準トス

正規回転数 一、九〇〇回転/毎分
 最大回転数 二、一〇〇回転/毎分
 正規地上馬力 約五四〇馬力
 最大地上馬力 約六四〇馬力
 正規與圧高度馬力 (與圧高度四、三〇〇米ニテ) 約六三〇馬力
 最大與圧高度馬力 (與圧高度四、三〇〇米ニテ) 約七三〇馬力

- (イ) 射撃装置
試製單銃身旋回機關銃一銃（實包ニ一丸發射）ヲ装着ス
- (ロ) 無線装置
無線装置一組ヲ装着ス
- (ハ) 寫眞装置
寫眞装置一組ヲ裝備ス
- (ニ) 計測器装置
油量計ニ箇高度計ニ箇速度計ニ箇旋回指示器一箇人工水
準器一箇、羅針盤ニ箇回轉計一箇飛行時計ニ箇気筒温度計
一箇滑油温度計一箇滑油油圧計一箇燃料油圧計一箇吸入
圧力計一箇ヲ装着ス
- (ホ) 電気装置
機上電機器具一組及照明用諸燈器ヲ装着ス
- (ヘ) 各種附屬品
落下傘ニ箇信號拳銃一挺（彈藥一口發射）搭載器具一組偵

- 緊用具（双眼鏡）一箇ヲ装着ス
- (F) 以上ノ他特別裝備トシテ酸素吸入器ヲ装着スルコトヲ得
- 七、其ノ他必要ナル事項
- (A) 本機ハ本邦軌道ニ依ル輸送容易ナリ
- (B) 本機ノ機体構成ノ各部結合ハ鉄又ハ「ボルト」止ナルヲ以テ部分的交換及修理等容易ナリ

第三 主要諸元

全幅	約一、二、〇〇〇米
全長	約八、四九〇米
全高	約三、三四〇米
主翼面積（補助翼共）	約二、六〇〇平方米
空虛重量	約一、九六〇
全備重量	
常時	約一、九八五

燃料満載	約二一三一瓩
搭載量	
常時	約五八九瓩
燃料満載	約七三五瓩
燃料	
常時	約四〇〇立
満載	約三八〇立
滑油	
常時	約三〇立
満載	約二九瓩
乗員	約三九瓩
乗員	約一四〇瓩
乗員	二名
火器	單銃身旋回機關銃一式
無線装置	一式
写真装置	一式

電氣裝置

各種附屬品

主要性能

上昇限度（理論）

同
(實用)

上昇時間

水平飛行速度

三、△△△米迄

一、ハロハ米ニ於テ

三、四、五、六、七、八、九、十

四三〇〇米三於テ

五、□□□米ニ於テ

五分

四
▽
五
籽
/ 稞

四
五
四
粉

四八口

四七八
新日

計約一二口

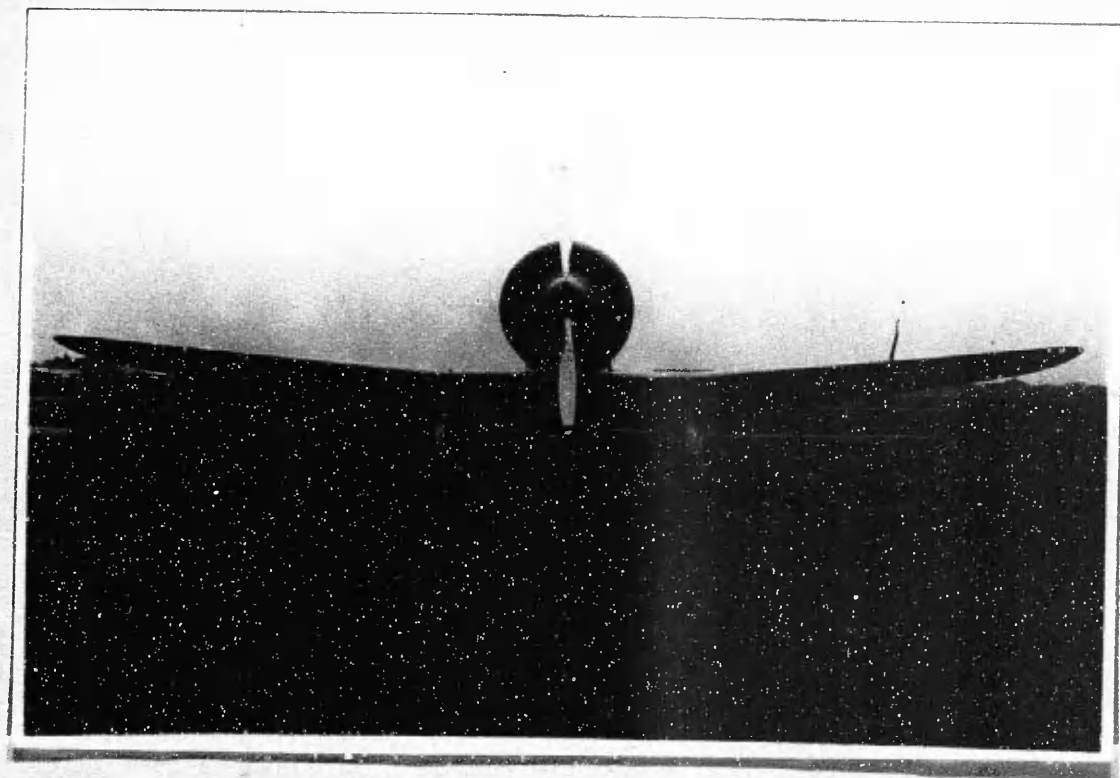
一、式

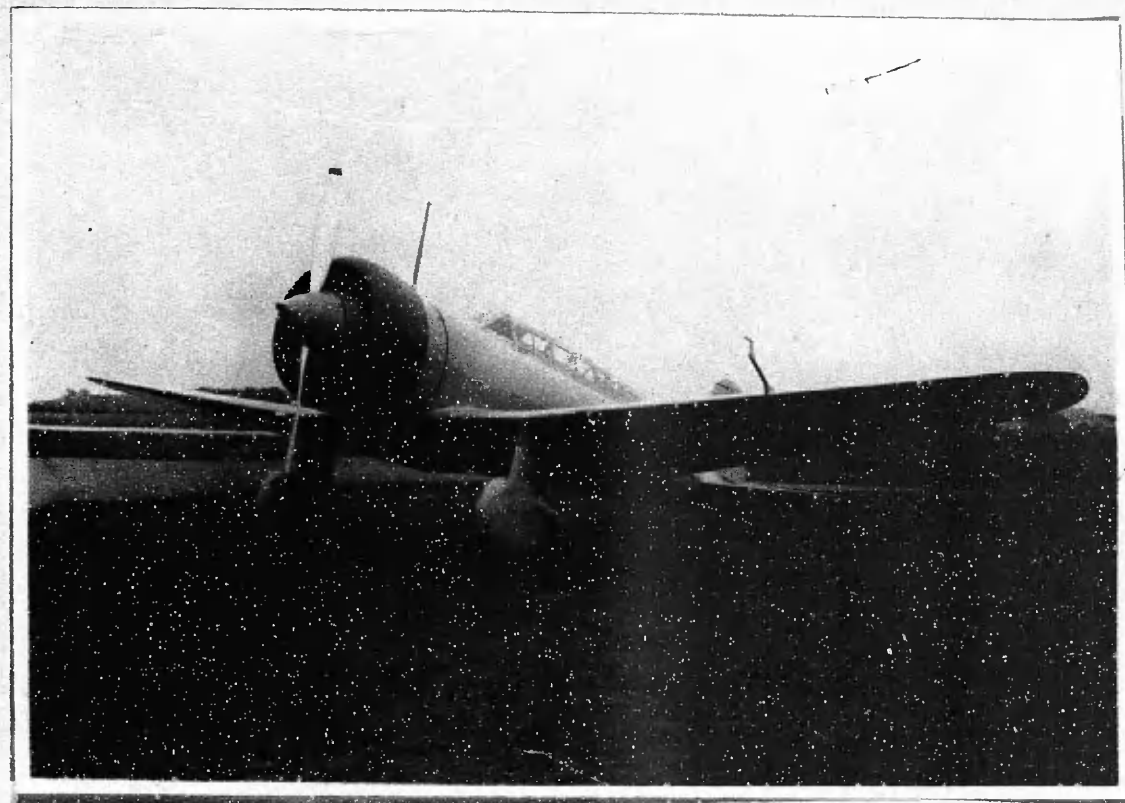
一、式

一二〇〇米

一、三、四、五、六

0522





0523

0524



九七式司令部偵察機審成績概要

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式司令部偵察機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十年六月二十八日航秘第五三四号高速連絡機試作審査要領ニ基キ試作セルキ十五ニ就キ其ノ性能並實用の價値ヲ判定シ機種決定ノ資料ヲ得次ヲ昭和十二年二月十五日航秘第五〇号昭和十二年度航空兵器審査研究ニ關スル特別指示ニ基キ改修試作セシメタルキ十五ニ就キ暫定的司令部偵察機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判 決

本機ハ要求セラレタル諸條件ヲ充足シ司令部偵察機トシテ概ネ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般成績

- 一 本機ノ構造諸元及飛行性能別紙ノ如シ
- 二 行動半径
行動半径ハ要求條件ヲ充足シ。料ニシテ行動ノ爲概ネ
一時間ノ餘裕ヲ有ス
尚燃料満載ノ場合ニ於テハ約七。料迄延長シ得且概ネ一
時間ノ餘裕ヲ有ス
増加タンクヲ装着セル場合ニハ行動半径約一。料ニシ
テ約一時間ノ餘裕ヲ有ス
- 三 操縦性能
安定良好且操縦一般ニ容易ニシテ操縦性能良好ナリ
- 四 偵察及戦闘性能
偵察性能ハ概ネ良好ナリ
旋回戦闘ハ容易ニシテ射撃性能概ネ良好ナリ
- 五 構造強度
陸軍飛行機構造假規程ニ基キ製作セラシ構造適當強度充分

ナリ

六 耐久性及取扱

耐久性ニ富ミ取扱容易ナリ

七 鉄道輸送

本邦軌道ニ依ル鉄道輸送容易ナリ

第四 審査経過ノ概要

一 第一期

昭和十年六月二十八日航秘第五三四号高速連絡機試作審査要領ニ基キ昭和十年七月二十三日三菱重工業株式会社ニ設計試作ニ關スル指示ヲ與ヘ陸軍航空技術研究所指導ノ下ニ昭和十一年五月試作機一機ヲ完成セリ

本機ハ陸軍航空技術研究所ニ於ケル基本並実用試験ノ結果要求セラレタル諸條件ヲ充足シ高速連絡機トシテ適當ナルノ判決ヲ得タリ

二 第二期

昭和十二年二月十五日航秘第五〇号昭和十二年度航空兵器
 審査研究ニ関スル特別指示ニ基キ前記飛行機ヲ司令部偵察
 機ニ充當スル目的ヲ以テ天蓋操縦席並射撃設備ヲ改修試作
 セシメタル愛國第一三一号ヲ昭和十二年五月上旬完成シ陸
 軍航空技術研究所ニ於テ審査シ其ノ結果暫定的司令部偵察
 機トシテ適當ト認ムルノ判決ヲ得タリ

別紙第一

九七式司令部偵察機構造ノ概要諸元飛行性能

一、構造ノ概要

本機ハ低翼片持式單葉複座機ニシテ機体ハアルミニウム合金ヲ主材トシ一部ニ鋼ヲ使用シ操縦翼ハ帆布張ニシテ胴体前端ニ九四式五五〇馬力發動機一基ヲ装シフロペラハ金屬製ニ翼分離式トス

構造ハ寫真第一第二ノ如シ

ニ本機ノ主要諸元次ノ如シ

全	幅(米)	一三〇.〇
全	長(米)	八四.九
全	高(米)	三三.九
主翼面積(補助翼共)(平方米)		二〇.一六
空虚重量(鈞)		一三九六
搭載量(鈞)	八常時 燃料満載	五八九 七三五

全備重量(斜) (人常時) 一九八五
 燃料満載 二一三一
 三本機ニ装着ノ發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシ
 テ主要諸元次ノ如シ

名	稱	型	式	気	筒	数	圧	縮	比	正規	回轉數(毎分)	最大	回轉數(毎分)	地上	馬力	正規	最大	與	圧	高度	馬力	全	長	(米)	全	徑	(米)	重	量	(匁)
九四式五五〇馬力	星型固定空氣冷式			九			五・六			一九〇〇	二一〇〇	五四〇	六四〇					四三〇〇	米ニテ六三〇	四三〇〇	米ニテ七三〇	一・一四九		一・三五〇		四五〇				

0531

四本機ノ飛行性能次ノ如シ

水平飛行速度

高度(米)	最大水平速度(米/時)	上昇時間	高度(米)	上昇時間
一〇〇〇	四〇五	二分一三秒	一〇〇〇	二分一三秒
二〇〇〇	四二七	三分四四秒	二〇〇〇	三分四四秒
三〇〇〇	四五〇		三〇〇〇	
四〇〇〇	四七二		四〇〇〇	
四三〇〇	四八〇		四三〇〇	
五〇〇〇	四七八		五〇〇〇	
六〇〇〇	四七三		六〇〇〇	
七〇〇〇	四六七		七〇〇〇	

3 上昇限度

七〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇〇
一 三 分 五 三 秒	一 〇 分 五 一 秒	八 分 二 七 秒	六 分 三 七 秒	五 分 〇 四 秒

理論 一、二、〇、〇、〇
 実用 一、一、三、四、〇

五 主要装備

1 射撃装備

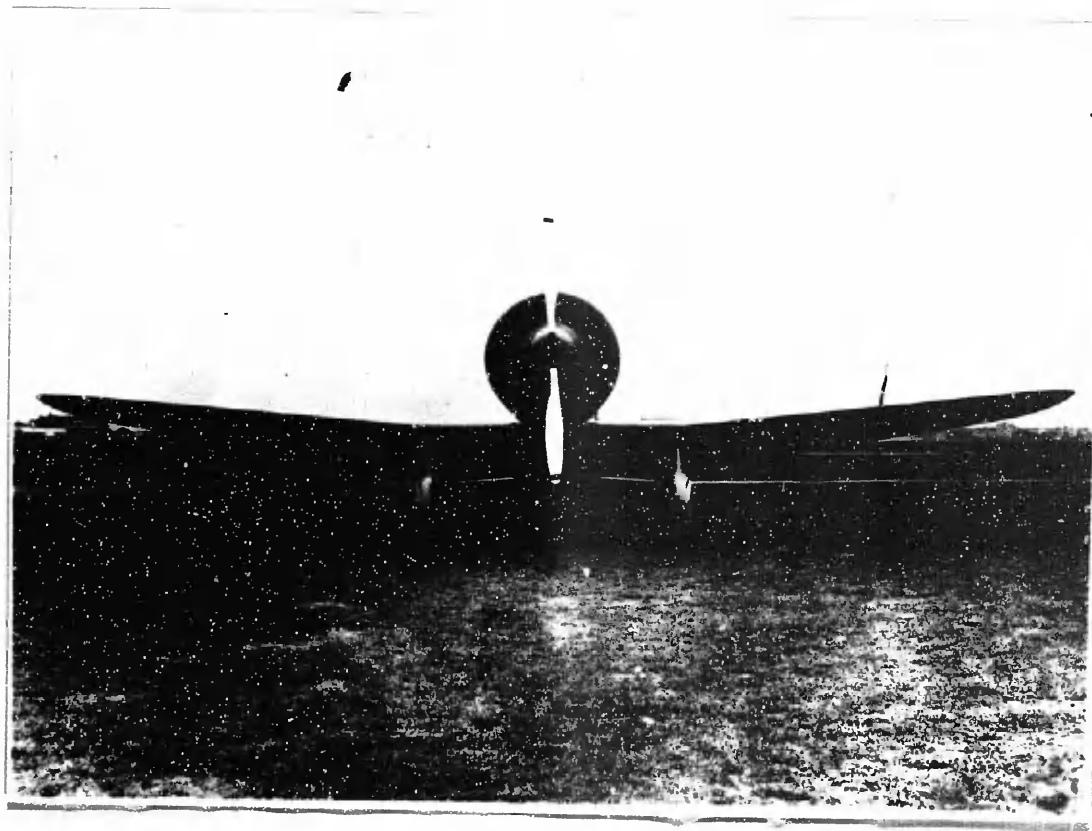
望遠鏡身 旋回鏡

2 無線装備

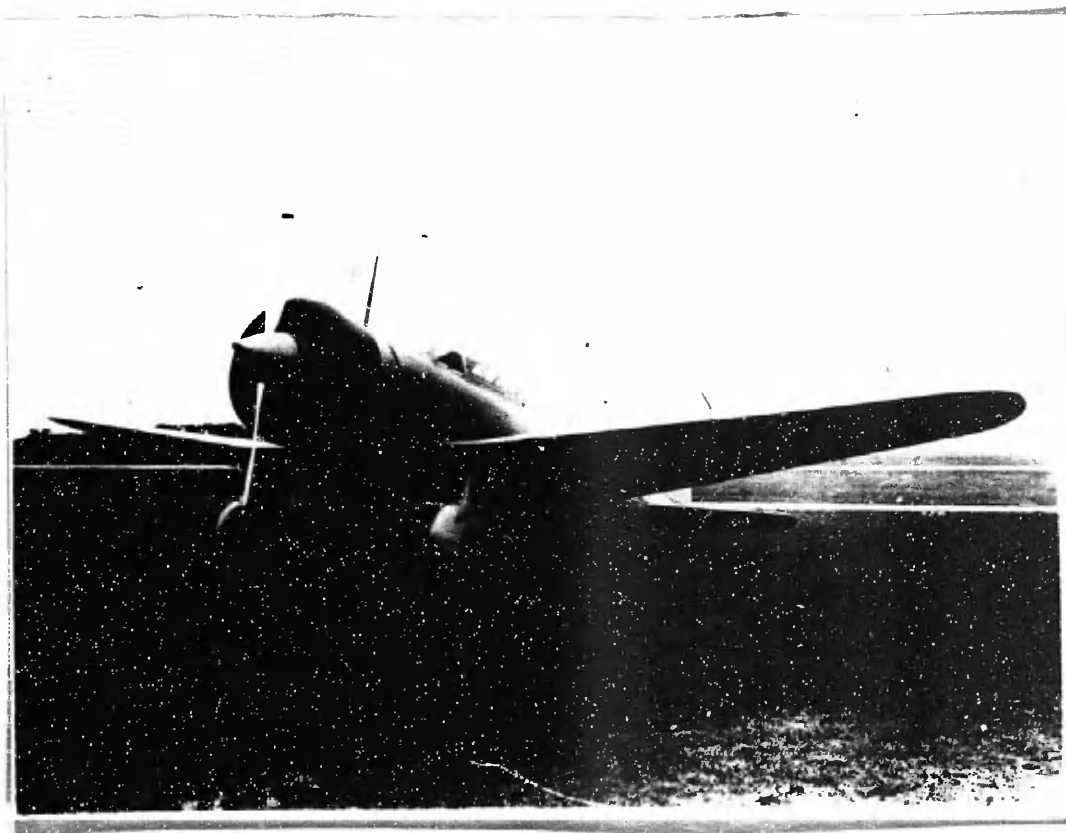
一式

3 砲兵装備

一式

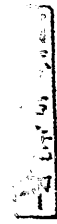


0533



0534

0535



九七式輸送機構造要領

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式輸送機構造要領

第一用 途

一 本機ハ人員ノ輸送並連絡ニ用ウルモノトス

第二 構造機能ノ概要

三 本機ハ低翼片持式單葉多座機ニシテ胴体面側主翼前縁ニ九七式五〇馬力發動機各一基及「プロペラ」各一本ヲ併列ニ装ス
 三 本機ノ機体ハ胴体翼組降着装置操縦装置其ノ他胴体内外附屬諸装置等ヨリ成リ一部ニ鋼及「マケネシウム」合金ヲ用ウル外主トシテ「アルミニウム」合金ヲ用ウ

(1) 胴体ハ概テ階四形断面ヲ有スル半張殻式ニシテ多数ノ四角及縦通材ヲ以テ構成シ「アルミニウム」合金合板ヲ以テ被覆ス

(1) 胴体前部ハ貨物室ヲ形成シ順次後方ニ操縦座席無線席

輸送員室洗面所及後方貨物室ヲ備フ

(2)

操縦座席前面及兩側ニハ硝子製窓ヲ有シ側方ハ開閉式トス、又輸送員室兩側ニハ各四箇ノ矩形窓及座席ヲ設

クルト共ニ之ニ要スル防音及換氣等ノ諸設備ヲ備フ

(ロ)

翼組ハ片持式單葉ニシテ中央翼左右外翼左右端末翼下ケ翼ニ分レ中央翼ハ胴体中央翼取付部田框下部及兩側部ニ

各断面材ニテ接合セラル

(1) 中央翼ハ三箇ノ主桁多数ノ縦通材及小骨ヲ以テ骨格ヲ

構成シ「アルミニウム」合金合板ニテ被覆ス

平面經始ハ梯形ニシテ翼内中央部ニ燃料「タンク」ヲ收容

ス、又中央翼外側ニハ夫々發動機なせるヲ有シなせる

ニハ脚組ヲ引上ケタル場合之ヲ收容シ得ル如ク空部ヲ

有入

(2)

外翼ハ殆ト中央翼ト同様ナル構造ニシテ五箇ノ桁ヲ有シ中央翼ニ多数ノ「ボルト」ニテ連結ス

- (3) 補助翼ハ前縁ニ主桁後縁ニ補助桁ヲ有シ其ノ間ニ多数ノ小骨ヲ配置シ羽布張ナリ
尚主桁前方ニ各ニ箇ノ三角形平衡錐ヲ設ケ右補助翼ニ
ノミ平衡板ヲ有ス
- (4) 端末翼ハ三箇ノ桁ヲ有シ其ノ構造ハ外翼ト同要領トシ
連結用鰐板ヲ外翼ニ挿入シ彈性止「ボルト」ニテ外板ト夫
カ連結ス
- (5) 下ノ翼ハ胴体外側ヨリ補助翼ニ至ル主翼下面ニ蝶番軸
ニヨリ装着ス
- (ハ) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定
板及昇降舵垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル
- (1) 水平安定板ハ左右ニ箇ニ分割セラレ片持力カ外皮構造
ニシテ五箇ノ桁及多数ノ縦通材ヲ以テ骨格ヲ構成シ「ア
ルミ」ニウム合金合板被覆トス
- 胴体トノ連結ハ水平安定板ノ桁及外板ヲ直接胴体圓柱
及胴外板ニ彈性止「ボルト」ニテ結合セラル

- (2) 毎直安定板ノ構造及其ノ胴体ニ対スル連結ハ水平安定板ト全ク同様トス
- (3) 昇降舵ハ左右ニ箇ニ分割セラレ前縁管並多数ノ小骨ヲ以テ骨格ヲ構成シ羽布張ニシテ後縁ニハ平衡板ヲ有ス
- (4) 方向舵ハ昇降舵ト其ノ構造全ク同要領ニシテ前縁部ニ重垂鈎合ヲ有スルト共ニ後縁ニハ平衡板ヲ有ス
- (二) 發動機架ハ著腹式ニシテ中央翼左右ニ設ケラレタル發動機ナセテ第一円柱ニ設ケラレタル取付金具ニ装着セラレ一箇ノ發動機取付環ト八箇ノ支柱トヨリ成ル
- (ホ) 降着装置ハ脚組車輪脚組引込装置及尾輪装置ヨリ成ル
- (1) 脚組ハ引込式ニシテ各支柱ハ特殊鋼管ノ熔接ニシテ緩衝装置ハ油圧及圧搾空気ヲ併用ス又脚引込ニハ油圧ヲ使用ス
- (2) 車輪ハ九〇×三〇〇高圧制動車輪ヲ使用ス
- 滑脚組ヲ換装シテ低圧車輪ヲ装着スルコトヲ得
- (3) 尾輪装置ハ旋回式ニシテニ五〇×一〇〇「ソリッド」尾輪及時

殊鋼管製ノ取付支柱及緩衝支柱ヨリ成リ緩衝装置ハ油圧及圧搾空氣圧ヲ併用ス

(ハ) 操縦装置ハ複操縦装置ニシテ昇降舵方向舵補助翼ノ各操縦装置並昇降舵方向舵補助翼各平衡板操作装置ヨリ成ル

(1) 各操縦装置ハ索積桿及連接桿ノ結合ヨリ成ル

(2) 昇降舵方向舵及補助翼平衡板操作装置ハ鎖鋼索積桿及齒輪装置ヨリ成リ操縦座席房ニ設ケラレタル各操作装置把手ニヨリ操作セラル

(3) 脚及下ケ翼起動装置ハ油圧式ニシテ油タンク油圧ポンプ脚起動切換下ケ翼起動切換弁及脚及下ケ翼油圧筒並電気式信号装置ヨリ成ル

(4) 正操縦座席ニハ上下調整装置ヲ備フ

(ト)

附属諸装置ハ燃料始動及給油装置等ヨリ成ル

(1) 燃料装置ハ燃料タンク手動ポンプ燃料濾過器弁動機送油ポンプ燃料調圧弁及此等ヲ連結スル配管ヨリ

三

成ル
燃料「タンク」ノ容量ハ概テ次ノ如シ

「タンク」ノ名称及位置		容量 (立)	
主「タンク」中央翼内	前方左右	二八三五	七七〇
補助「タンク」中央翼内	後方左右	二八二八〇	五六〇
總 容 量		一三三三〇	

(2) 始動装置ハ燃料注射ポンプ^レ並手動及電気式慣性始動機ヲ備ヘ電源ハ地上及機上何レヨリモ使用スルコトヲ得

(3) 給油装置ハ滑油「タンク」^レ滑油濾過器發動機ノ給油ポンプ^レ及此等ヲ連結スル配管等ヨリ成ル

滑油「タンク」ハ容量約五五升ノモノニ箇ニシテ夫々發動機架上部ニ装着ス

四、本機ノ發動機ハ九七式五〇〇馬力九気筒固定星型空冷式ニ

(口)		シテ気化喫圧臭火、冷却及運転ノ諸装置ヲ備ヘ尚燃料供給 並始動装置ヲモ附屬セシメ得ル構造ヲ有ス 主要諸元及性能次ノ如シ	
性能	諸元	気筒径	一四六糎
正規回転数	行程	重量	一六〇糎
最大回転数	量	發動機ノ外径	約四〇〇ミ
正規地上馬力	滑油及同消費率	プロペラノ回転方向	約二八〇ミ (飛行方向ニ視テ)右廻リ
		燃料及同消費率	(航空全揮発油ヲ用テ)二六〇馬力時ヲ標準トス
		滑油及同消費率	(航空機用「ヒマシ」油ヲ用テ)一二五馬力時
		正規回転数	二、一〇〇 回転/毎分
		最大回転数	二、三〇〇 回転/毎分
		正規地上馬力	約四八〇 馬力

最大地上馬力 約 六〇〇 馬力
 正規喫圧高度馬力 (高度二六〇〇米ニテ) 約 五〇〇 馬力
 最大喫圧高度馬力 (高度一九〇〇米ニテ) 約 六三〇 馬力
 五、七〇ペラ、ハ金屬製ニ翼可変節又ハ分離式ナリ
 六装 備

(1) 計測器裝置

操縦者用計測器ノ主ナルモノ次ノ如シ

高度計 一箇	速度計 一箇
昇降計 一箇	旋回指示器 一箇
人工水準器 一箇	人口指向器 一箇
羅針盤 一箇	飛行時計 一箇
大気溫度計 一箇	遠方回轉計 二箇
気筒溫度計 一箇	滑油溫度計 二箇
滑油々圧計 二箇	燃料油圧計 二箇
吸入圧力計 二箇	油量計 一箇

輸送算室用計測器ノ主ナルモノ次ノ如シ

高度計 一箇 速度計 一箇

(四) 無線装置一組ヲ裝備ス

(ハ) 其ノ他電気装置、手持消火器、九〇式小型照明彈、投下装置、二号炭火用油器等ヲ備フ

七、其ノ他必要ナル事項

(一) 本機ハ機体構成ノ各部結合ハ鉄又ハボルト止ナルヲ以テ部分の交換及修理等容易ナリ

第三 主要諸元

全幅	約一五、九一四米
全長	約一五、三〇〇米
全高	約四、一五〇米
主翼面積(補助翼共)	約四九、二 平方米
空虛重量	約三、二三〇 磅

装 備			貨物	乗員	滑油	燃料	塔載量	全備重量
電氣装置	無線装置	計測器装置	特常別	特常別	特常別	特常別	特常別	特常別
一式	一式	一式		一〇名	約八五立	約三七立	約三七立	約三七立
約	約	約	約	約	約	約	約	約
二〇一	一八六	四九〇	七〇	八四	九七五	五七五	二七〇	五二〇
研	研	研	研	研	研	研	研	研

主要性能

手持消火器
照明彈及同投下装置
其、他各種附属品
備考 特別トハ乗員七名燃料満載ノ場合ヲ云フ

一式
一式
約ニ七〇挺

上昇限度 (理論)

同 (実用)

上昇時間

水平飛行速度

一、〇〇〇米ニ於テ	三三五	秒
二、〇〇〇米ニ於テ	三四六	秒
四、〇〇〇米ニ於テ	三三六	秒

六、六三〇米	六三四〇米	八分三九秒
--------	-------	-------



0547

0548



九七式輸送機審査成績概要

昭和十二年十二月
陸軍航空本部

九七式輸送機^機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十二年五月五日航二第一一一号AT二型輸送機審査ノ件
通牒ニ基キ「キ三十四」第一〇二号機並第一〇三号機ニ就キ審査
シ輸送機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判決

本機ハ要求セラレタル諸條件中標準燃料搭載量ニ於ケル航續
距離ハ約二〇〇料不足スルモ其ノ他ハ之ヲ充足シ輸送機トシ
テ概テ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般成績

一、本機ノ構造諸元及飛行性能別紙ノ如シ
二、航續距離

標準燃料搭載量ニテ 一、三〇〇料

燃料満載ニテ

二、二五〇料

三 操縦性能

操縦性能良好ニシテ離著陸時ニ於ケル偏向癖モ垂直尾翼ノ面積増大並尾輪固定装置装置ニヨリ改善セラレ実用ニ適ス

四 運航性

針路保持容易ニシテ運航性良好ナリ

五 構造強度

航空評議會ノ飛行機々体強度規程ニ準據シ製作セラレ構造概テ適當強度十分ナリ

六 耐久性及取扱

耐久性ニ富ミ取扱容易ナリ

第四 審査經過ノ概要

昭和十二年四月一日、ギ三十四無線航法練習機ニ関スル指示ニ基キ第一〇二号機ニ所要ノ改修ヲ実施セシメ六月四日完成六

月十日ヨリ該機ニ就キ第一次審査ヲ開始シ七月三日之ヲ終了
 シ其ノ成績ニ基キ所要ノ改修ヲ指示セリ更ニ八月二十六日完
 成セル第一〇三号機ニ就キ九月十三日ヨリ第二次審査ヲ開始
 シ爾後時局ニ鑑ミ審査期間ノ短縮ヲ期シタルモ十月二十日ヨ
 リ十月五日ニ至ル間北支出勤ノタメ一時審査ヲ中止シ十月五
 日ヨリ再ヒ第二次審査ヲ續行シ十月二十七日審査ヲ終了シ輸
 送機トシテ概ニ適當ト認ムル判決ヲ得タリ

別紙第一

九七式輸送機構造ノ概要諸元飛行性能
一、構造ノ概要

本機ハ操縦席二、無線席一、客席八ヲ有スル片持式低翼單葉機ニシテ機体ハ「アルミニウム合金」ヲ主材トシ一部ニ鋼ヲ使用シ胴体兩側主翼前縁ニ九七式「五〇馬力」發動機二基ヲ裝著シ「プロペラ」ハ金屬製可変節スハ分離式ヲ用ヒ脚ハ「引込式」ナリ其ノ構造ハ寫真第一及第二ノ如シ
二、本機ノ主要諸元次ノ如シ

搭載量 (座)	全幅	全長	全高	主翼面積 (補助翼共) (平方米)	空虚重量 (座)	特別
	(米)	(米)	(米)			常時
	一九・九一四	一五・三〇〇	四・一五〇	四九・二	三・二三〇	一・七七〇
						二・〇二〇

地上馬力		最大回轉數(毎分)	正規回轉數(毎分)	プロペラ軸回轉方向	圧縮比	氣筒	型式	名稱	全備重量(冠)		備考
正規	最大								常時	特別	
四八〇	六〇〇	二、三〇〇	二、一〇〇	飛行方向ニ見テ右	五・二五	九	星型固定空冷式	九式五〇馬力發動機	五、〇〇〇	五、二五〇	時七七〇立乗員一〇名 別一、三三〇立乗員七名

三、本機ニ装著ノ發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシテ其ノ主要諸元次ノ如シ

四、本機ノ飛行性能次ノ如シ
 八、水平飛行速度

重 量 (斤)	全 径 (米)	全 長 (米)	與圧高度馬力	
			正 規	最 大
四〇〇	一、二八〇	一、〇五〇	二、六〇〇米ニテ 五〇〇	一、九〇〇米ニテ 六三〇

二、上昇時間

高 度 (米)	上 昇 時 間	高 度 (米)	最 低 平 速 度 (時)
一、〇〇〇	二分五四秒	一、〇〇〇	三三五
二、〇〇〇		二、〇〇〇	三四六
三、〇〇〇		三、〇〇〇	三四二
四、〇〇〇		四、〇〇〇	三三六

二、〇〇〇	五分四〇秒
三、〇〇〇	八分三九秒
四、〇〇〇	十二分一九秒

3、上昇限度(米)

理論 六、六三〇

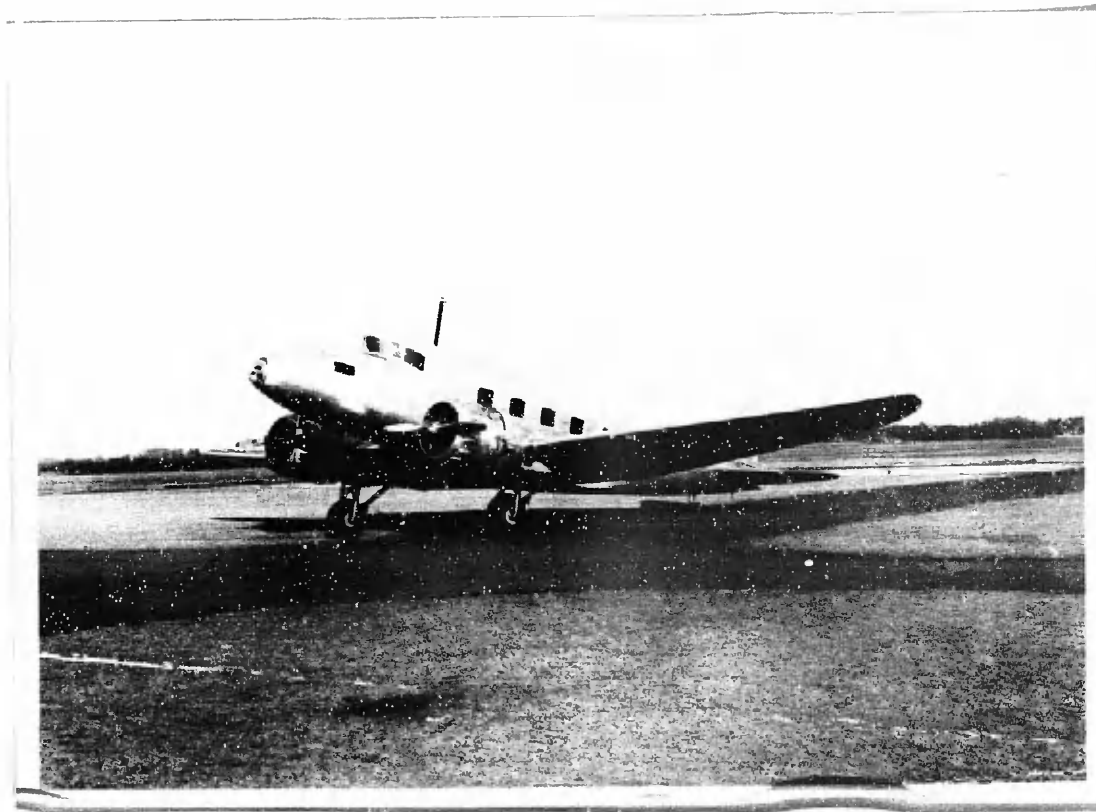
實用 六、三四〇

五、主要裝備

1、無線裝備 一式

2、電氣裝備 一式

0556



説明ターゲット

次の原稿

不鮮明あり

| 0557 ~ 0883 |

4 年 10 月 1 日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫





大本營
陸軍部
參密第三八四號第一

密
二四九
一



陸軍

九七式機關機、九七式輕爆彈機、九七式重爆彈機、九七式司令部
偵察機、九七式輸送機假制式制定ノ件回答

昭和十二年十二月廿八日 參謀總長 載 仁 親

陸軍大臣 杉 山 元 殿

首題ノ件ニ關シ陸密第一五七二號ヲ以テ照會ノ趣異存ナシ



示

大本營
陸軍部
參密第三八四號第二

九七式機關機、九七式輕爆機、九七式重爆機、九七式
司令部偵察機、九七式輸送機優制式制定ノ件四答

昭和十二年十二月廿八日
參謀總長 載 仁 親 王

陸軍大臣 杉 山 元 殿

首題ノ件ニ關シ陸密第一五七二號ヲ以テ照會ノ趣具存ナシ

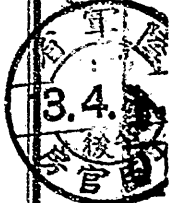
主

陸
軍



航二發第六六五號

密 第二四九



陸



九七式飛行機構造要領送付ノ件

昭和十三年四月一日 陸軍航空本

陸軍大臣官房 御中

昭和十二年十二月廿八日陸密第一五七三號ニ依リ制式制定セラレタル左記飛行機構造要領（秘密區分表共）調製セシニ付配賦表ニ基キ關係部隊へ配賦方取計ハレ度送付目錄相添へ各一三八部送付ス

（現品別送）
追而別ニ大臣閱覽用トシテ一部送付セシニ付閱覽セラレタル後下渡方相煩度

左記

- 九七式戰闘機構造要領
- 九七式輕爆撃機構造要領
- 九七式重爆撃機構造要領
- 九七式司令部偵察機構造要領
- 九七式輸送機構造要領

軍事秘密